

平成28年度

ヒヤリ・ハット調査

「シニア世代における一人及び二人暮らしの身の回りの危険」

調査報告書

平成29年9月

東京都生活文化局消費生活部

目 次

I. 調査概要	2
1. 調査の目的	2
2. アンケート調査対象者及び調査方法等	2
3. 集計・分析にあたって	3
II. 調査結果	4
1. アンケート回答者の基本情報	4
(1) 居住地	4
(2) 性別	4
(3) 年代	5
(4) 訪問回数	5
(5) 見守っている高齢者との関係	6
2. 高齢者の一人及び二人世帯における家庭内での危害及びヒヤリ・ハット経験	7
(1) 危害及びヒヤリ・ハット経験（全体傾向）	7
(2) リビング、居間での危害及びヒヤリ・ハット経験	10
(3) 台所、ダイニングでの危害及びヒヤリ・ハット経験	17
(4) 風呂、脱衣所、洗面所、トイレでの危害及びヒヤリ・ハット経験	23
(5) 寝室、ベッド、寝具での危害及びヒヤリ・ハット経験	29
(6) 玄関、階段、廊下での危害及びヒヤリ・ハット経験	35
(7) ベランダ、庭での危害及びヒヤリ・ハット経験	41
(8) 集合住宅の共用部での危害及びヒヤリ・ハット経験	47
(9) その他の家の中での製品等の危害及びヒヤリ・ハット経験	53
(10) 高齢者のみの世帯における身の回りの安全について、普段気をつけていることや工夫について	54
III. まとめ	64
IV. アンケート調査票	65

I. 調査概要

1. 調査の目的

高齢者を見守っている家族や関係者の目を通して、高齢者のみの世帯（一人及び二人暮らし）における家庭内の身の回りで起こった危害及びヒヤリ・ハット経験について実態調査を行うことで、今後の施策の参考とする。

2. アンケート調査対象者及び調査方法等

- (1) アンケート調査対象者：東京都在住の70歳以上の単身及び夫婦、兄弟・姉妹等の二人暮らし世帯の家族に対して週1回以上の訪問をしていて、家事支援や見守り等を行っている東京都及び神奈川県、埼玉県、千葉県に在住する20歳以上の男女

※ 調査は主に東京都在住者を対象として実施し、不足する部分を神奈川県、埼玉県、千葉県在住者で補完した。

- (2) 回答数：3,000人

- (3) 調査実施方法：インターネットアンケート

- (4) 調査期間：平成29年1月20日～25日

【アンケート調査対象者内訳】

表1 アンケート調査対象者内訳

	男性	女性	合計
20～29歳(人)	165	230	395
割合(%)	5.5%	7.7%	13.2%
30～39歳(人)	339	298	637
割合(%)	11.3%	9.9%	21.2%
40～49歳(人)	417	385	802
割合(%)	13.9%	12.8%	26.7%
50～59歳(人)	360	411	771
割合(%)	12.0%	13.7%	25.7%
60～69歳(人)	205	190	395
割合(%)	6.8%	6.3%	13.2%
合計	1,486	1,514	3,000
割合(%)	49.5%	50.5%	100.0%

(5) 調査項目：

本調査では高齢者のみの世帯における身の回りに関する過去5年間に経験した次の8項目の危害及びヒヤリ・ハット経験について調査を行った。

- ①リビング、居間での危害及びヒヤリ・ハット経験
- ②台所、ダイニングでの危害及びヒヤリ・ハット経験
- ③風呂、脱衣所、洗面所、トイレでの危害及びヒヤリ・ハット経験
- ④寝室、ベッド、寝具での危害及びヒヤリ・ハット経験
- ⑤自宅の玄関、階段、廊下での危害及びヒヤリ・ハット経験
- ⑥自宅のベランダ、庭での危害及びヒヤリ・ハット経験
- ⑦集合住宅の共用部での危害及びヒヤリ・ハット経験
- ⑧その他の家の中での危害及びヒヤリ・ハット経験

(6) 調査内容

- ①高齢者のみの世帯における家庭内の身の回りの危害及びヒヤリ・ハット経験※の実態
「リビング、居間」「台所、ダイニング」「風呂、脱衣所、洗面所、トイレ」「寝室、ベッド、寝具」「自宅の玄関、階段、廊下」「自宅のベランダ、庭」「集合住宅の共用部」「その他の家の中や製品」の8項目について、経験の有無とその詳細
- ②見守っている高齢者の身の回りの安全について、普段気を付けていることや工夫
※危害及びヒヤリ・ハット経験
 - ・本報告書において「危害」とは、実際にけがをしたこと、火事になったことを示し、「ヒヤリ・ハット」とは、けがや火事には至っていないが、けがをしそうになった、火事になりそうになったことを示す。
 - ・「けが」には、やけど、誤飲、窒息、溺水等による体調不良も含める。

3. 集計・分析にあたって

- (1) 回答比率(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答比率を合計しても、100%にならない場合がある。
- (2) 設問によっては、複数回答の結果、回答比率の合計が100%を超える場合がある。
- (3) グラフに表記される「N=*」「n=*」(*は数字)は、対象の母数を表す。
Nはグラフ全体の母数、nは各項目の母数を表す。
- (4) グラフや表の中での選択肢の文章が長い場合は、簡略化して表現しているため、調査票の文章とは一致していない場合がある。
- (5) 本報告書の集計における「転倒」の事例には、階段や脚立等から落ちること、いわゆる「転落」「落下」等に該当するものも含めた。

Ⅱ. 調査結果

1. アンケート回答者の基本情報

(1) 居住地

アンケート回答者の居住地は「東京都」64.6%、次いで「神奈川県」が15.4%、「埼玉県」が11.1%、「千葉県」が8.9%、となっている。

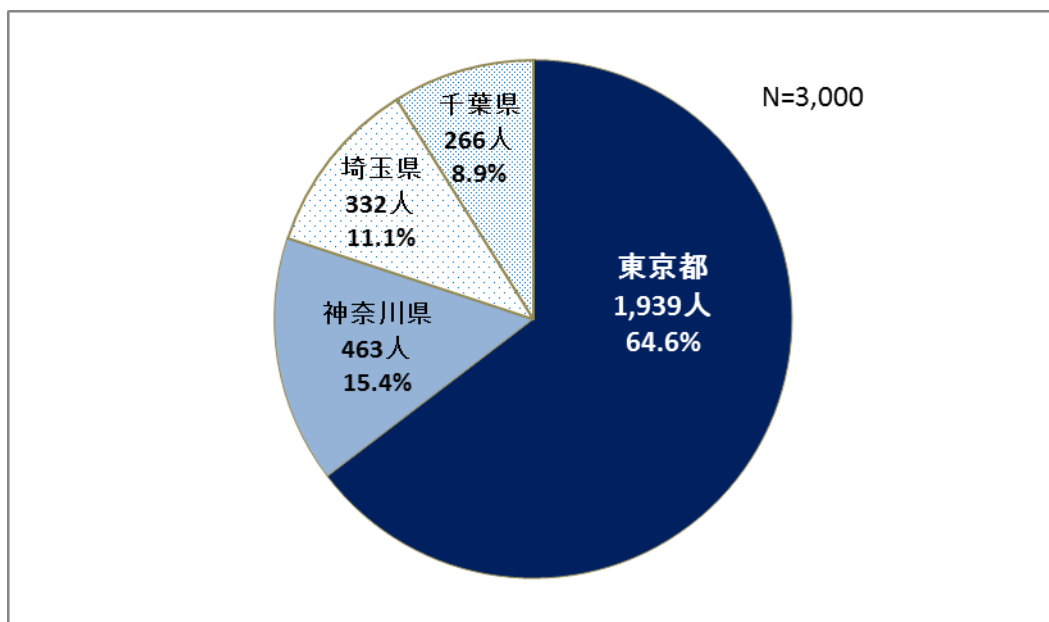


図 1_1. 回答者の居住地

(2) 性別

アンケート回答者の性別は、「男性」49.5%、「女性」50.5%となっている。

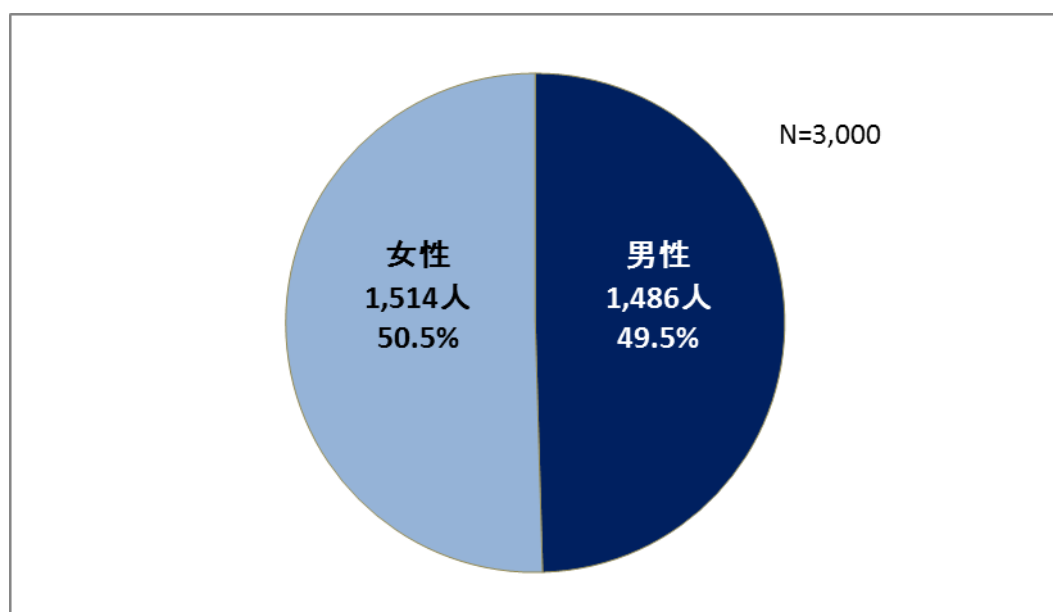


図 1_2. 回答者の性別

(3) 年代

アンケート回答者の年代は、「20～29歳」13.2%、「30～39歳」21.2%、「40～49歳」26.7%、「50～59歳」25.7%、「60～69歳」13.2%となっている。

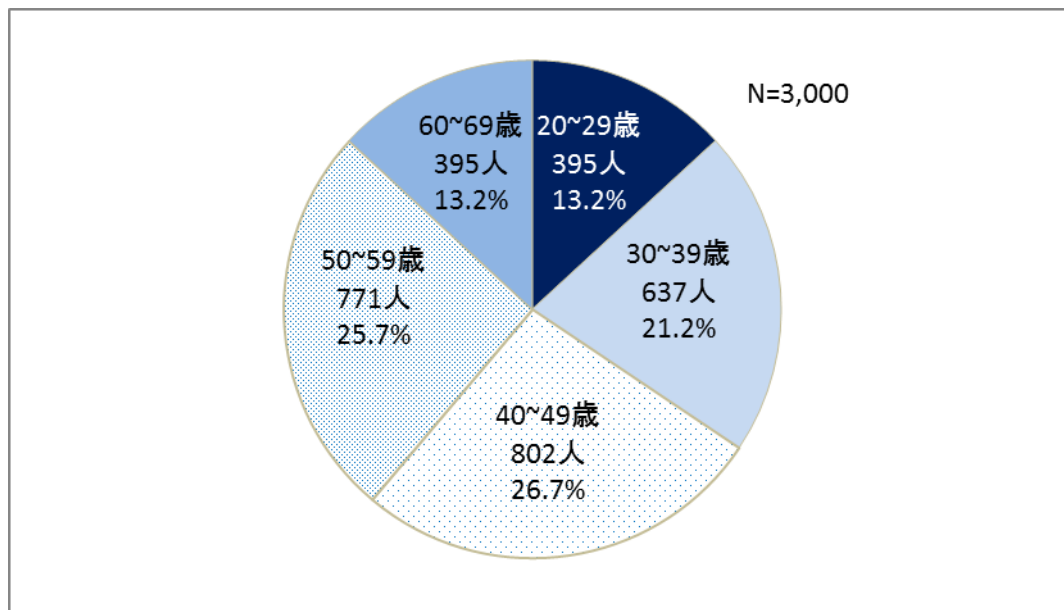


図 1_3. 回答者の年代

(4) 訪問回数

アンケート回答者が見守っている高齢者を訪問する回数は、「ほとんど毎日訪れている」が30.3%、「週3～5回くらい訪れている」が20.0%、「週1～2回くらい訪れている」が49.7%となっている。

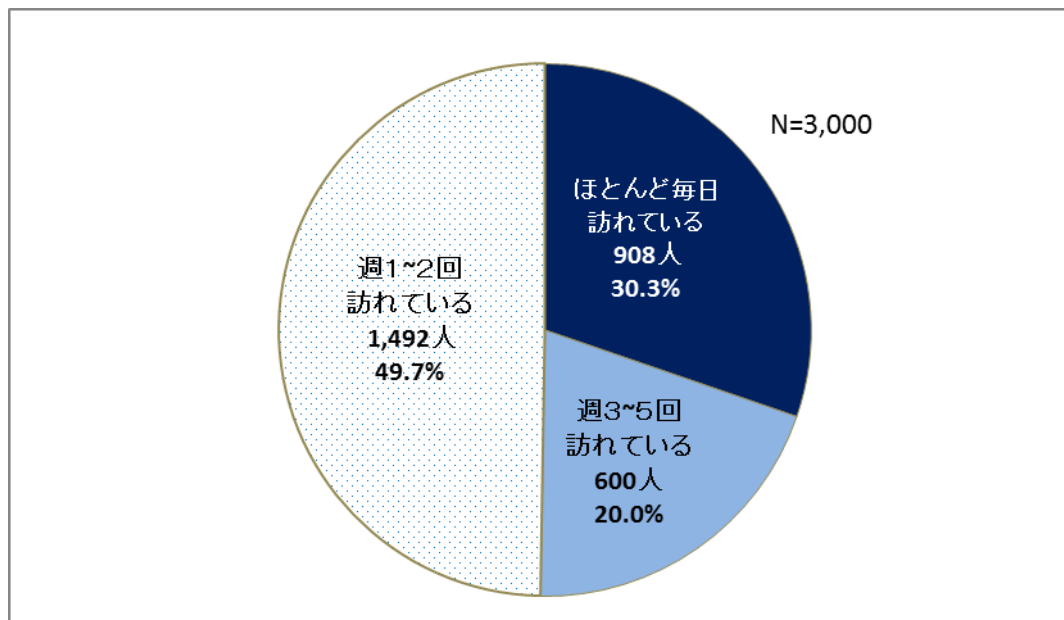


図 1_4. 見守っている高齢者を訪問する回数

(5) 見守っている高齢者との関係

アンケート回答者から見た見守っている高齢者との関係は、「親」が2,113人、「兄弟姉妹」が140人、「祖父母」が420人、「親、兄弟姉妹、祖父母以外の親族」が173人、「近所の人」が171人、「ヘルパー、ボランティア等、仕事（報酬の有無は問わない）としての見守り先の人」が231人、「その他」が51人となっている。「その他」には、知人、友人、先生などが含まれている。

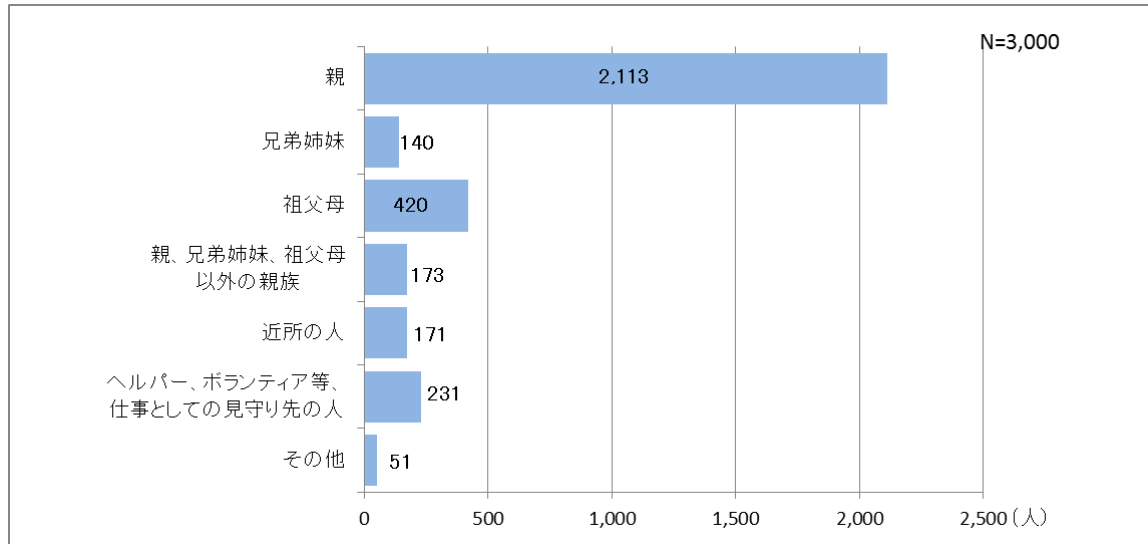


図 1_5. 見守っている高齢者との関係（複数回答）

2. 高齢者の一人及び二人世帯における家庭内での危害及びヒヤリ・ハット経験

(1) 危害及びヒヤリ・ハット経験（全体傾向）

①家庭内での危害及びヒヤリ・ハット経験

図 2_1_1 は、見守っている高齢者の家庭内での危害及びヒヤリ・ハット経験の有無についての割合を示しており、何らかの経験があると答えた人は、3,000 人中 1,808 人（60.3%）と半数を超えた。なお、危害及びヒヤリ・ハット経験が複数ある人については、危害程度が重い事例の回答を優先して集計した。

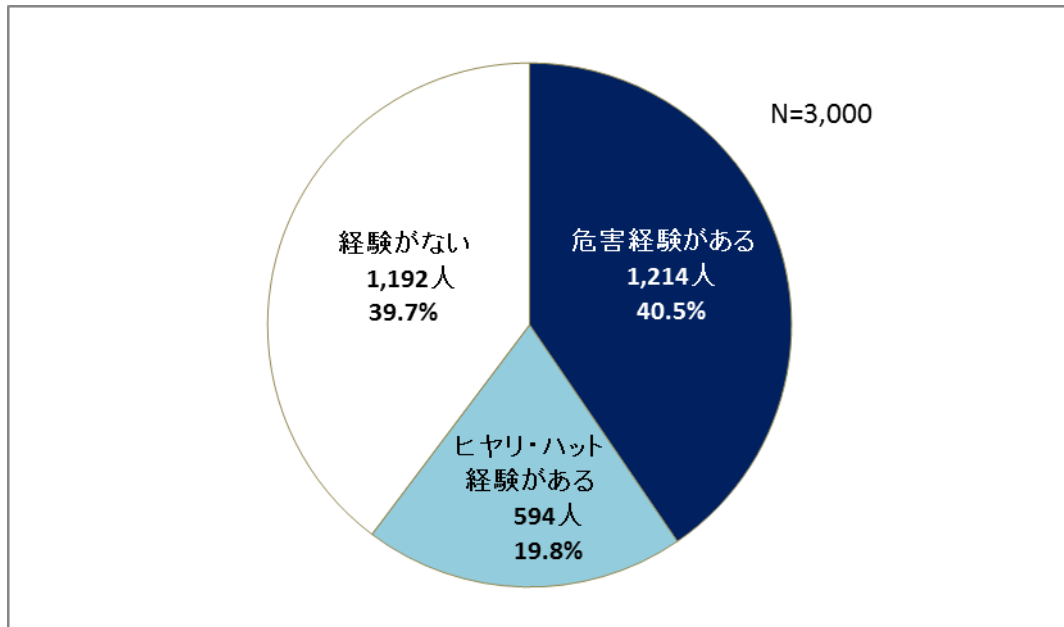


図 2_1_1. 家庭内での危害及びヒヤリ・ハットの経験（全体）

②項目別の危害及びヒヤリ・ハット経験

図 2_1_2 は、質問した項目別（家庭内の場所等）の危害及びヒヤリ・ハット経験の割合を示したものである。「リビング、居間」における経験が最も多く、「自宅の玄関、階段、廊下」がそれに続く。

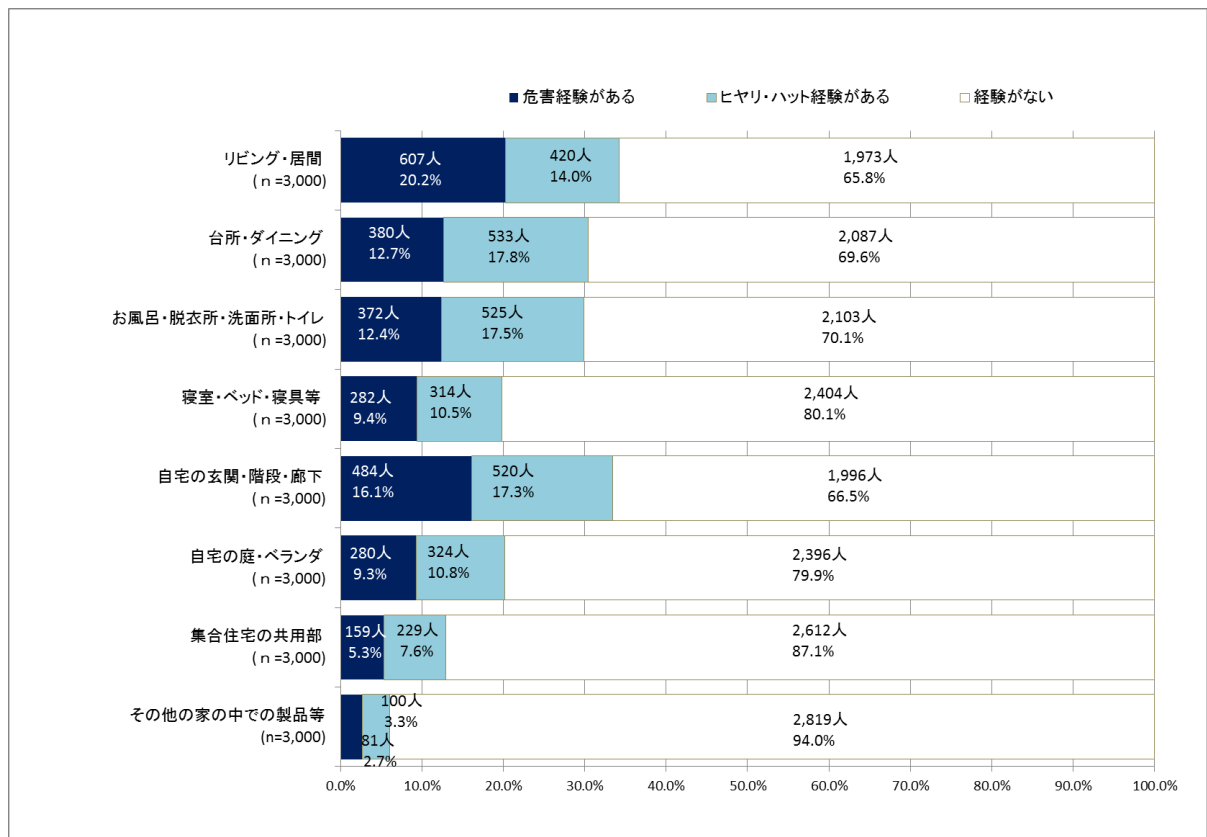


図 2_1_2. 家庭内での危害及びヒヤリ・ハット経験（項目別）

③危害及びヒヤリ・ハット経験をした高齢者の性別及び年齢域

図 2_1_3 は危害及びヒヤリ・ハット経験をした高齢者を性別及び年齢域別に示したものである。危害及びヒヤリ・ハット経験をした高齢者は延べ人数にして合計 5,610 人であり、男性が 2,195 人、女性が 3,415 人となっている。

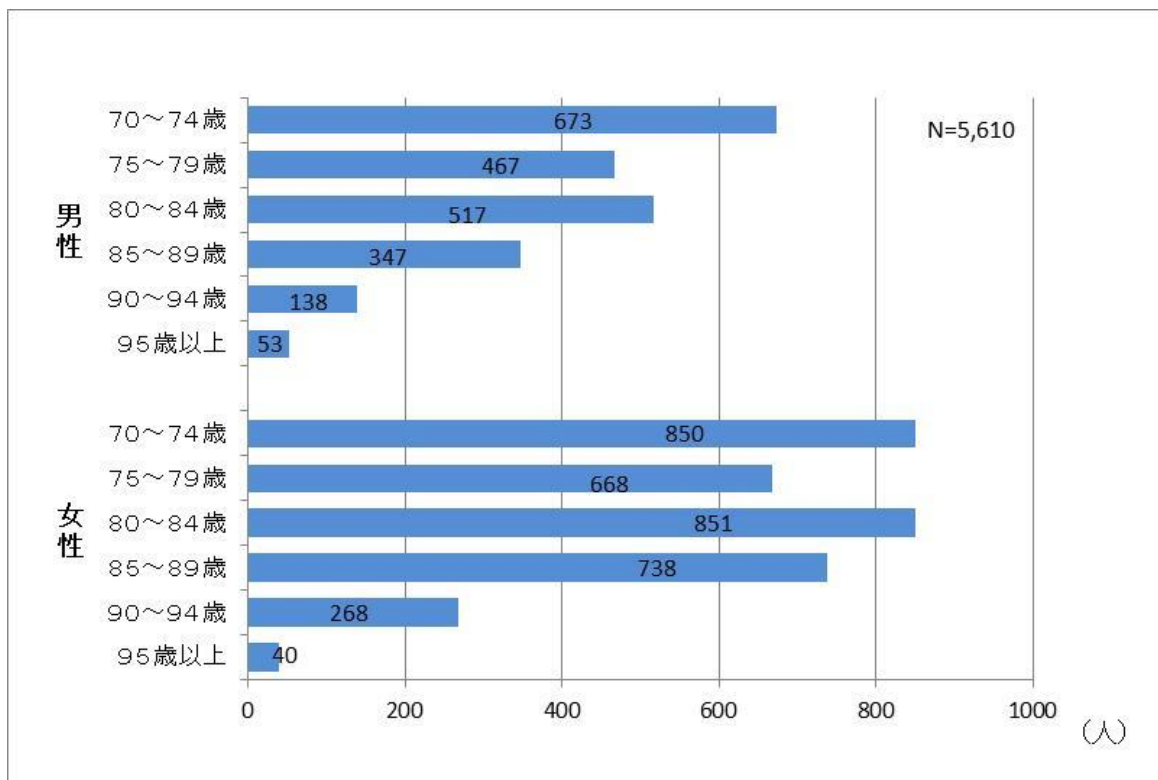


図 2_1_3. 家庭内での危害及びヒヤリ・ハット経験をした高齢者（性別・年齢域別）

(2) リビング、居間での危害及びヒヤリ・ハット経験

図 2_2_1 はリビング、居間での危害及びヒヤリ・ハット経験について、その原因となった製品等について人数をまとめた結果である。

リビング、居間での危害及びヒヤリ・ハット経験があると回答した人数は 3,000 人中 1,027 人 (34.2%) であった。製品等別に見ると「敷物」が 247 人 (24.1%) と最も多く、次いで「床／フローリング」151 人 (14.7%)、「椅子／ソファ」126 人 (12.3%) と続く。

「危害経験がある」「けがをして入院した」「けがをして病院へ行った」「けがをしたが病院へは行かなかった」との回答は、「敷物」が 134 人と最も多く、次いで「床／フローリング」105 人と続く。「その他」には、掃除機やペットの猫等が見られた。

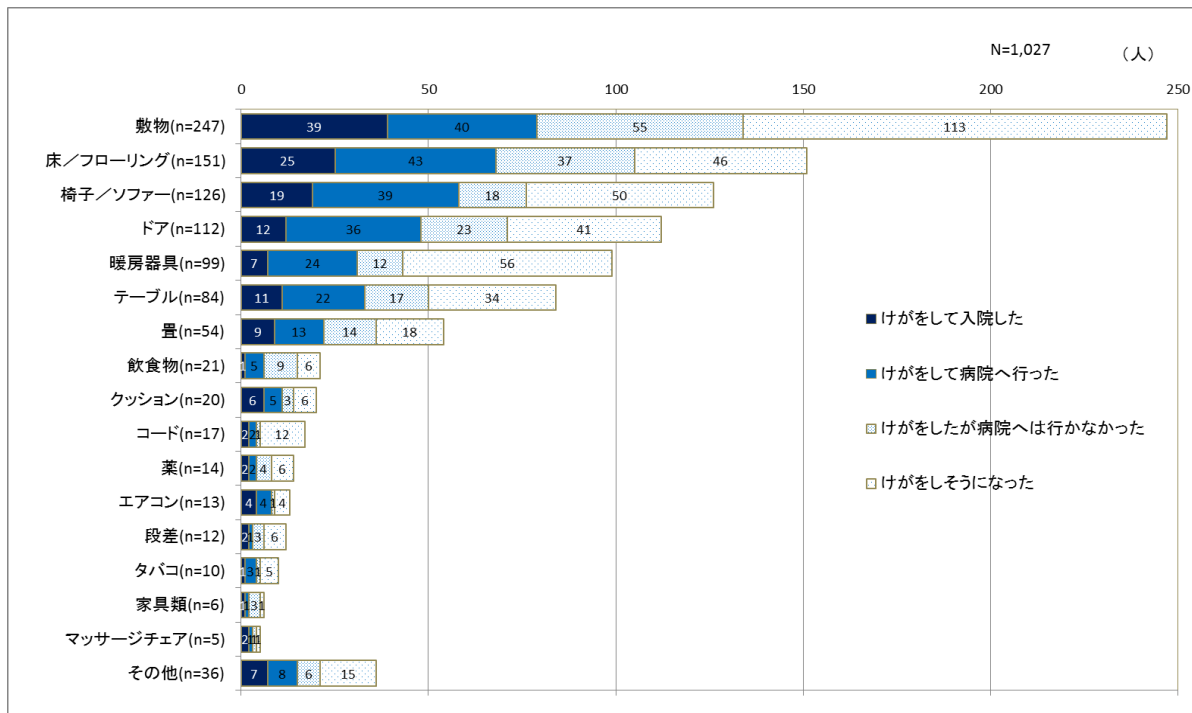


図 2_2_1. リビング、居間での危害及びヒヤリ・ハット経験の製品等別の危害程度

表 2_2_1 は、リビング、居間での危害及びヒヤリ・ハット経験についてその原因となった製品等で多かったもの上位 5 位までについて、事例ごとに経験者数をまとめた結果である。

表 2_2_1. リビング、居間での危害及びヒヤリ・ハット経験（製品等×事例）

		事例					
		1 位 (人)		2 位 (人)		3 位 (人)	
製品等	敷物	転倒	210	—	—	—	—
	床／フローリング	転倒	140	—	—	—	—
	椅子／ソファ	転倒	101	ぶつけた	9	—	—
	ドア	転倒	33	挟んだ	28	ぶつけた	27
	暖房器具	転倒	58	やけど	19	引火・燃焼	10

※詳細不明及び 1 件しかない事例については省略した。

表 2_2_2 は、リビング、居間での危害及びヒヤリ・ハット経験の原因となった製品等について、性別及び年齢域ごとに経験者数をまとめた結果である。

表 2_2_2. リビング、居間での危害及びヒヤリ・ハット経験（製品等×性別・年齢域）

		敷物	床／フローリング	椅子／ソファ	ドア	暖房器具
【全 体】		247	151	126	112	99
男 性	総数	86	41	43	46	33
	70～74 歳	30	8	11	20	8
	75～79 歳	16	10	8	12	6
	80～84 歳	21	12	11	10	8
	85～89 歳	13	5	7	4	6
	90～94 歳	3	4	5	0	3
	95 歳以上	3	2	1	0	2
	総数	161	110	83	66	66
女 性	70～74 歳	38	27	22	19	11
	75～79 歳	31	16	17	11	19
	80～84 歳	40	27	23	19	17
	85～89 歳	38	24	17	13	14
	90～94 歳	14	13	4	3	5
	95 歳以上	0	3	0	1	0

※製品等は、危害及びヒヤリ・ハット経験の原因となったもののうち多かった上位 5 位までのものである。

表 2_2_3 はリビング、居間での危害及びヒヤリ・ハット経験の事例について、性別及び年齢域ごとにまとめた結果である。

表 2_2_3. リビング、居間での危害及びヒヤリ・ハット経験（性別・年齢域×事例）

	n 数	男性							女性						
		70 ～ 74 歳	75 ～ 79 歳	80 ～ 84 歳	85 ～ 89 歳	90 ～ 94 歳	95 歳 以上	計	70 ～ 74 歳	75 ～ 79 歳	80 ～ 84 歳	85 ～ 89 歳	90 ～ 94 歳	95 歳 以上	計
転倒	723	53	49	59	41	18	6	226	118	88	139	102	44	6	497
ぶつけた	69	18	4	4	4	0	0	30	14	12	8	5	0	0	39
挟んだ	28	6	3	4	0	0	0	13	5	3	4	2	0	1	15
やけど	27	2	4	0	2	0	0	8	3	7	2	5	2	0	19
誤飲・誤嚥	22	0	1	2	1	0	0	4	4	3	6	3	2	0	18

※事例についてはリビング・居間において最も多かった上位5位までのものである。

表 2_2_4 に詳細事例を示す。

表 2_2_4. リビング、居間での危害及びヒヤリ・ハット経験の詳細事例

No	製品名等	事例 キーワード	性別・年齢域別	事例詳細
1	床・畳・敷物	転倒（滑った）	男性 70～74歳	つや出しのワックスをかけた後、予想以上にツルツル滑るようになり、靴下で転びそうになった。
2	床・畳・敷物	転倒（引っかかった）	男性 70～74歳	荷物をまたごうとして、カーペットと床の間に足が引っかかり、転ぶのを避けようとして足を引き上げたときに、そばにあったテレビ台の角に、足の小指をぶつけて骨折した。
3	床・畳・敷物	転倒（つまずいた）	男性 70～74歳	部屋の畳とフローリングの間に3cm程度の段差があり、そのへりにつまずいて転倒し、脚をくじいて通院した。
4	床・畳・敷物	転倒（尻もち）	女性 70～74歳	母が足を滑らせて尻もちをつきそうになった際に、手をついてひねってしまった。
5	床・畳・敷物	転倒（バランスを崩した）	女性 70～74歳	移動しようと立ち上がり、体勢が安定していなかったのか向きを変える際にバランスを崩し転倒してしまった。
6	床・畳・敷物	転倒（異物を踏んだ）	女性 70～74歳	畳の上に置いているものを踏んでしまい滑って転倒した。胸を打って痛みが続いた。
7	床・畳・敷物	転倒（つまずいた）	女性 85～89歳	つま先が敷物のへりに引っかかり、つまずいて倒れかけた。もう少しで家具に顔を打ち付けるところで危なかった。その時は手をついただけだが、右手小指をどこかに当てたらしく内出血して色が消えるまで二週間かかった。
8	床・畳・敷物	転倒（つまずいた）	男性 85～89歳	リビングに敷いていたカーペットにつまずいて転倒し、とっさに両手をついて手首を骨折、入院してしまった。
9	床・畳・敷物	転倒（引っかかった）	女性 80～84歳	電気カーペットの隅のコードの部分に足を引っかけて、転倒した。
10	床・畳・敷物	転倒（つまずいた）	男性 90～94歳	薄いマットなのに引っかかって危ないので、外して欲しいと言われた。
11	床・畳・敷物	転倒（つまずいた）	女性 90～94歳	フローリングの上に敷いたカーペットの端がめくれており、それに足を引っ掛けて転んだ。膝をひねり接骨院へ何日か通院した。
12	ドア	転倒	女性 70～74歳	壁づたいに歩いていてドアノブを掴もうとした時に掴み損ねて、そのまま転んでしまった。
13	椅子等	転倒（転落）	男性 70～74歳	電球を替えようとして椅子に乗り転落してしまい、腰を強く打ち腰の骨を骨折して入院した。
14	椅子等	転倒（転落）	女性 70～74歳	マッサージチェアから降りようとしたら転倒して膝を痛めた。
15	椅子等	転倒（転落）	男性 80～84歳	目が不自由なので椅子に座ろうとしたときに、思ったところより椅子が後ろにあり、座り損ねて転倒してしまった。
16	椅子等	転倒	女性 80～84歳	椅子から自分で立ち上がろうとしたときに、つかまるところがないのに無理をして立ち上がったときに転んだ。

No	製品名等	事例 キーワード	性別・年齢域別	事例詳細
17	テーブル・杖	転倒（物を拾おうとした）	男性 70～74歳	テーブルに立てかけておいた杖を取ろうとしたときに杖を落とし、それを拾おうとして転倒した。
18	テーブル	転倒（ぶつめた）	女性 70～74歳	テーブルの角にぶつかり、そのまま転倒しそうになったが側にいた家族がとっさに腕を掴んで転倒を防いだ。長い丈のスカートを履いていて、身動きが取りにくかったようだった。
19	テーブル	ぶつかった	女性 70～74歳	母がテーブルの脚に足をぶつけて骨折した。ちょっとつまずいただけと言っていたが、痛みが引かず受診した結果、骨折していた。
20	テーブル	ぶつかった	女性 80～84歳	リビングに置いてあるローテーブルの角に足が当たってよろけてしまい、とっさに左手をついて、手首を痛めた。
21	テーブル	転倒（引っかかった）	女性 85～89歳	立ち上がった際に、バランスを崩してテーブルの脚に足を引っかけて転びそうになった。幸い、ソファがあったので、そこに手をついて怪我はなかったが、もしソファがなければ怪我に至っていた可能性がある。
22	クッション	転倒（つまずいた）	女性 70～74歳	クッションにつまずいて倒れて、壁に顔を打ちつけた。
23	クッション	転倒（踏んだ）	女性 75～79歳	クッションを踏んでグニャとして、バランスを崩して転倒した。
24	ストーブ等	ぶつめた	女性 70～74歳	リビングに置いてあるオイルヒーターに体をぶつけて、オイルヒーターが倒れてしまった。ギリギリのところで大丈夫だったが、10キロ近くあるので足の上に倒れていたら大けがをしているところだった。
25	ストーブ等	消し忘れ	女性 80～84歳	ストーブをつけたまま出かけそうだった。
26	ストーブ等	不完全燃焼	女性 85～89歳	ファンヒーターをつけたつもりが、点火になっておらずガスの匂いが部屋中に充満していた。
27	ストーブ等	転倒（引っかかった）	女性 85～89歳	電気ストーブのコードがいっぱいいっぱいにのびていて、足をひっかけて転んだ。
28	ストーブ等	引火・燃焼	女性 90～94歳	電気ストーブに毛布をかけてこたつ代わりにしていた。毛布は燃え、気付くのが遅かったら火事になっていたと思う。
29	こたつ	転倒（引っかかった）	男性 80～84歳	3年前、父が炬燵の布団に足をとられて転倒。こたつの板の角に脇腹をぶつけ、肋骨にひびが入った。その後、およその完治に半年を要した。
30	エアコン	熱中症（故障）	女性 80～84歳	エアコンが故障して使用できず、熱中症になりかけていた。編み物をしてじっとして暑さやどの湯きに気づかなかった。
31	エアコン	熱中症（誤操作）	女性 80～84歳	エアコンの冷暖房のスイッチを間違えていて、熱中症になりかけた。
32	エアコン	熱中症（誤操作）	女性 85～89歳	猛暑の日にエアコンのリモコン操作を間違えて暖房になっており、脱水症になりかかっていた。訪問時、エアコンを冷房に切り替え、水分補給をした。リモコンの説明をしたが、あまり理解できていない様子だった。
33	やかん	やけど	女性 90～94歳	お茶を淹れてくれようとして、やかんを持ったままつまずいて、自分の足に熱湯をかけてやけどをした。

No	製品名等	事例 キーワード	性別・年齢域別	事例詳細
34	薬	誤飲（飲み間違い）	男性 80～84歳	お薬カレンダーに薬がセットしてあるが、次の日のを飲んでしまっていた。
35	タバコ	引火・燃焼 （消し忘れ）	男性 75～79歳	居眠りをして煙草を落とし、カーペットを燃やしていた。
36	猫	転倒 （つまずいた）	女性 85～89歳	足にすり寄ってくる猫につまずいてドアに額をぶつけてこぶをつくった。

(3) 台所、ダイニングでの危害及びヒヤリ・ハット経験

図 2_3_1 は台所、ダイニングでの危害及びヒヤリ・ハット経験について、その原因となった製品等ごとに危害程度の件数をまとめた結果である。

台所、ダイニングでの危害及びヒヤリ・ハット経験があると回答した人数は 3,000 人中 913 人 (30.4%) であった。製品等別に見ると「ガスレンジ」が 307 人 (33.6%) と最も多く、次いで「飲食物」110 人 (12.0%)、「調理用具」及び「ポット」90 人 (9.9%) と続く。「危害経験がある」(「けがをして入院した」「けがをして病院へ行った」「けがをしたが病院へは行かなかった」)との回答は、「ガスレンジ」が 108 人と最も多く、次いで「調理器具」52 人と続く。「その他」には、椅子、テーブル等が含まれている。

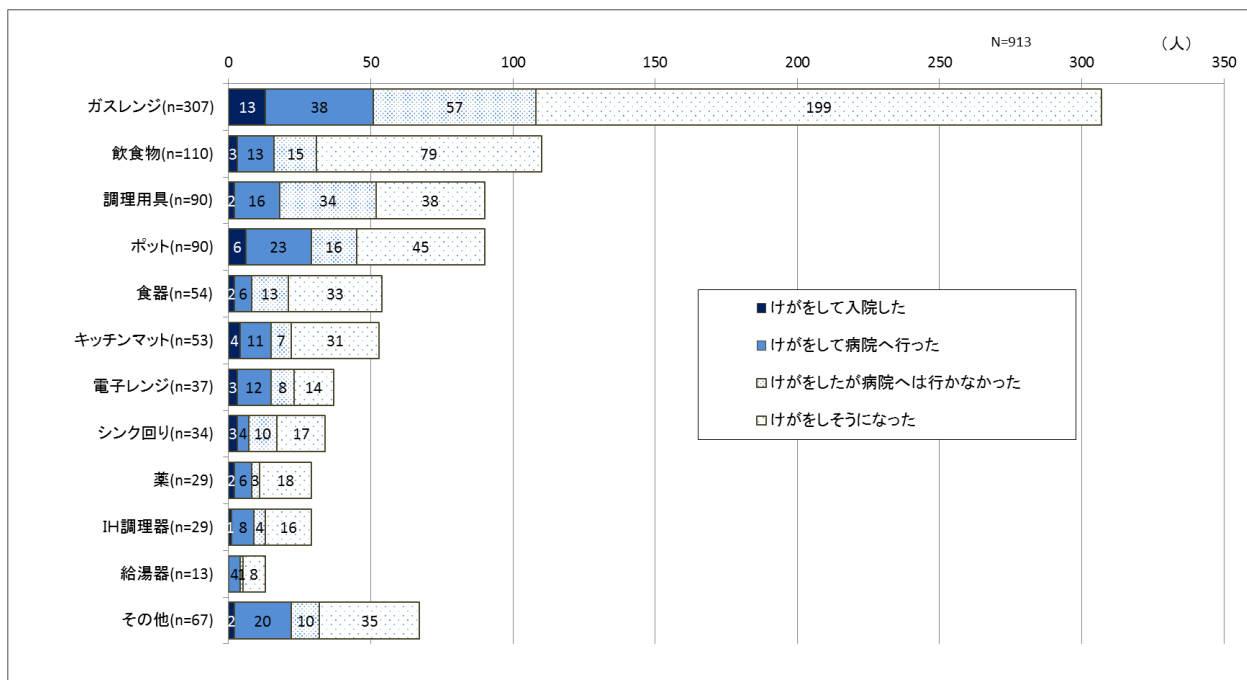


図 2_3_1. 台所、ダイニングでの危害及びヒヤリ・ハット経験の製品等別の危害程度

表 2_3_1 は、台所、ダイニングでの危害及びヒヤリ・ハット経験についてその原因となった製品等で多かったもの上位 5 位までについて、事例ごとに経験者数をまとめた結果である。

表 2_3_1. 台所、ダイニングでの危害及びヒヤリ・ハット経験（製品等×事例）

		事例					
		1 位 (人)		2 位 (人)		3 位 (人)	
製品等	ガスレンジ	消し忘れ	137	やけど	84	着衣着火	22
	飲食物	誤飲・誤嚥	91	やけど	11	—	—
	調理用具	切った	29	やけど	26	物を落とした	9
	ポット	やけど	64	物を落とした	11	転倒	2
						消し忘れ	2
食器	物を落とした	29	割れた	13	切った	7	

※詳細不明及び 1 件しかない事例については省略した。

表 2_3_2 は台所、ダイニングでの危害及びヒヤリ・ハット経験の原因となった製品等について、性別及び年齢域ごとに経験者数をまとめた結果である。

表 2_3_2. 台所、ダイニングでの危害及びヒヤリ・ハット経験（製品等×性別・年齢域）

		ガスレンジ	飲食物	ポット	調理用具	食器
【全 体】		307	110	90	90	54
男 性	総数	92	52	34	13	20
	70～74 歳	32	12	12	6	6
	75～79 歳	20	9	5	0	5
	80～84 歳	23	20	7	2	5
	85～89 歳	11	8	5	3	4
	90～94 歳	5	2	4	1	0
	95 歳以上	1	1	1	1	0
	総数	215	58	56	77	34
女 性	70～74 歳	56	18	18	22	7
	75～79 歳	43	7	11	24	10
	80～84 歳	51	10	12	21	6
	85～89 歳	50	15	13	8	6
	90～94 歳	13	7	2	2	3
	95 歳以上	2	1	0	0	2

※製品等は、危害及びヒヤリ・ハット経験の原因となったもののうち多かった上位 5 位までのものである。

表 2_3_3 は、台所、ダイニングでの危害及びヒヤリ・ハット経験の事例について、性別及び年齢域ごとにまとめた結果である。

表 2_3_3. 台所、ダイニングでの危害及びヒヤリ・ハット経験（性別・年齢域×事例）

	n 数	男性						女性						計	
		70 ～ 74 歳	75 ～ 79 歳	80 ～ 84 歳	85 ～ 89 歳	90 ～ 94 歳	95 歳 以上	計	70 ～ 74 歳	75 ～ 79 歳	80 ～ 84 歳	85 ～ 89 歳	90 ～ 94 歳		95 歳 以上
やけど	226	21	11	15	9	5	1	62	49	25	37	44	7	2	164
消し忘れ	155	10	9	7	7	3	1	37	31	27	28	23	8	1	118
誤飲・誤嚥	113	11	11	16	7	4	1	50	15	7	15	16	10	0	63
転倒	103	4	9	7	7	1	1	29	20	8	17	21	5	3	74
物を落とした	59	5	1	5	3	1	0	15	14	9	10	8	2	1	44

※事例については台所、ダイニングにおいて多かった上位5位までのものである。

表 2_3_4 に詳細事例を示す。

表 2_3_4. 台所、ダイニングでの危害及びヒヤリ・ハット経験の詳細事例

No	製品名等	事例 キーワード	性別・年齢域別	事例詳細
1	ガスコンロ	ガス漏れ (不完全燃焼)	女性 70～74歳	母親が調理をしていたが、火がついていない状態で、ガスを開けたままにしている、部屋中がガス臭くなってガス爆発するかと怖い思いをした。
2	ガスコンロ	やけど (引火・燃焼)	男性 80～84歳	ライターが見当たらなかったらしく、煙草を口にくわえてガスコンロの火を使って点けようとして髪が一部燃えた。
3	ガスコンロ	やけど (消し忘れ)	男性 80～84歳	料理中に台所を離れて鍋を焦がした。気がついて慌ててしまい、手をやけどした。
4	ガスコンロ	ガス漏れ (不完全燃焼)	女性 80～84歳	魚を焼くコンロが不完全燃焼しており、火がついていると思い込みガスが漏れた。
5	ガスコンロ	やけど(物を落とす)	女性 80～84歳	鍋料理を作っていて、バランスを崩して、鍋をひっくり返して熱湯を手足にかけてしまい、大やけどをしてしまった。皮膚科に通院して治療。火を使う家事は絶対やらせないよう、ガス調理器具から電気調理器にリフォームした。
6	ガスコンロ	引火・燃焼 (消し忘れ)	女性 80～84歳	火をつけっぱなしで外出しており、私が着いたときに部屋中が焦げ臭かった。弱火だったのとタイミングがよく火事にはならなかったが、私が行かなければ火事になっていた。
7	ガスコンロ	やけど (消し忘れ)	男性 85～89歳	お湯が少ない状態でガスをつけ、やかんをかけたがそのまま居眠り。空焚きの状態がしばらく続いていたのに気づき、慌てて流しにやかんを動かして水をかけたところ、突然上がった水蒸気で手をやけどした。
8	IH調理器	やけど(接触)	女性 80～84歳	鍋をどけたばかりでまだ熱かったときに触ってしまい、やけどをしそうになった。
9	IH調理器	やけど(接触)	女性 85～89歳	ガスコンロで使い慣れていたため、IH調理器が温まっているのか気になって、触ってやけどしそうになった。
10	換気扇・踏み台	転倒(転落)	女性 85～89歳	換気扇のスイッチの位置が高い場所にあるため、適当な踏み台を探して乗り、背伸びをして転落しそうになった。
11	シンク回り	転倒(足がもつれた)	女性 90～94歳	シンク回りに段差があり足がもつれて転んでしまい、足にあざができてしまった。
12	給湯器	やけど(高温)	女性 85～89歳	お湯の温度調節ができず、やけどしそうになった。
13	電子レンジ	やけど (過加熱)	女性 70～74歳	レンジで2回温めてしまい、加熱し過ぎでやけどした。幸い傷跡は残らない軽症だった。
14	ポット	やけど (空焚き)	男性 70～74歳	水を入れないまま、空焚きにしていて水を足そうとふたを取った瞬間湯気が一気に出て、やけどをしそうになった。
15	ポット	やけど (つまずいた)	男性 80～84歳	電気ポットのコードにつまずき電気ポットを倒してしまった。お湯を沸かして使った後だったので、中身は空だったので大事には至らなかった。
16	ポット	やけど (こぼした)	女性 85～89歳	自らお湯を入れる際、手にお湯がかかってしまい、大やけどを負い応急処置をしたが痛みが引かず、大至急車で病院に連れて行った。

No	製品名等	事例 キーワード	性別・年齢域別	事例詳細
17	ポット	やけど (ぶつけた)	男性 90～94歳	お茶を飲もうとしてよろけてポットにぶつかり、ポットが床に落ちてしまい少しお湯がかかってしまった。履いていた靴下はすぐに脱がせて冷たい水で冷やしたので、やけどにはならなかった。
18	電気ケトル	やけど (蹴った)	女性 80～84歳	足元に置いていた電気ケトルを蹴飛ばしてしまい、倒して危うくやけどをしそうになっていた。
19	包丁	物を落とした	女性 70～74歳	システムキッチンのノブに袖を引っ掛けて包丁を落としてしまい、床に刺さった。
20	鍋	やけど(物を落とした)	女性 75～79歳	母が水炊き鍋をガスレンジからテーブルに移動させようとして取っ手がうまくつかめずにひっくり返して、危うくやけどしそうになった。
21	鍋	やけど (こぼした)	女性 85～89歳	煮物をしていて出来上がった鍋を移動させる時に手を滑らせて腹部にこぼしてしまい、やけどをした。
22	食器	切った(物を落とした)	女性 70～74歳	食器を洗っている時に重くて落として割り、指を切った。
23	食器	やけど(物を落とした)	女性 95歳以上	味噌汁のお碗を持った手に力が入っておらず、お碗を落としてやけどをしそうになった。
24	キッチンマット	転倒 (つまずいた)	女性 85～89歳	キッチンマットにつまずいて転び、車で病院へ連れて行った。全治2ヶ月ほどだった。
25	薬	誤飲・誤嚥	女性 80～84歳	数が多いのにいっぺんに飲もうとするので、苦しそうにむせてしまう。
26	薬	誤飲 (飲み間違い)	女性 85～89歳	降圧剤を過重服用して血圧低下し、意識朦朧となった。
27	薬	誤飲 (飲み間違い)	男性 90～94歳	薬を服用したばかりなのに、勘違いで2回飲んでしまった。病院に問い合わせ、体に害がないか確認した。
28	タバコ	引火・燃焼 (消し忘れ)	女性 85～89歳	ごみ箱に吸い殻を捨てるのを止めてくれず、ある時蓋を開けたら煙が充満していた。

(4) 風呂、脱衣所、洗面所、トイレでの危害及びヒヤリ・ハット経験

図 2_4_1 は風呂、脱衣所、洗面所、トイレでの危害及びヒヤリ・ハット経験について、その原因となった製品ごとに危害程度の件数をまとめた結果である。

風呂、脱衣所、洗面所、トイレでの危害及びヒヤリ・ハット経験があると回答した人数は 3,000 人中 897 人 (29.9%) であった。製品・場所別に見ると「風呂場の床」が 373 人 (41.6%) と最も多く、次いで「浴槽」289 人 (32.2%)、「バスマット」81 人 (9.0%) と続く。“危害経験がある”（「けがをして入院した」「けがをして病院へ行った」「けがをしたが病院へは行かなかった」）との回答は、「風呂場の床」が 168 人と最も多く、次いで「浴槽」103 人と続く。「その他」には、鏡、照明器具などが含まれている。

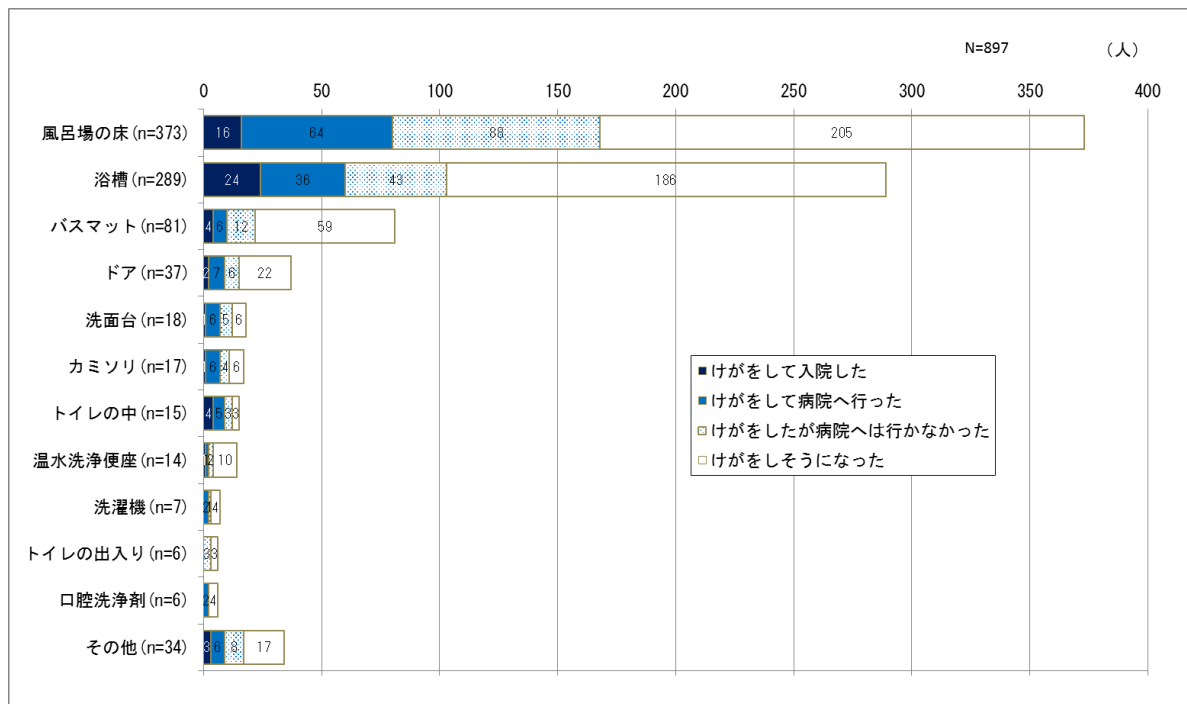


図 2_4_1. 風呂、脱衣所、洗面所、トイレでの危害及びヒヤリ・ハット経験の製品等別の危害程度

表 2_4_1 は、風呂、脱衣所、洗面所、トイレでの危害及びヒヤリ・ハット経験についてその原因となった製品等で多かったもの上位 5 位までについて、事例ごとに経験者数をまとめた結果である。

表 2_4_1. 風呂、脱衣所、洗面所、トイレでの危害及びヒヤリ・ハット経験（製品等×事例）

		事例					
		1 位（人）		2 位（人）		3 位（人）	
製品等	風呂場の床	転倒	351	気分が悪くなった	2	—	—
				動作の際にけがをした	2		
	浴槽	転倒	156	動けなくなった	21	眠った	20
	バスマット	転倒	73	—	—	—	—
	ドア	転倒	13	ぶつけた	9	挟んだ	8
	洗面台	転倒	6	ぶつけた	4	—	—

※詳細不明及び 1 件しかない事例については省略した。

表 2_4_2 は風呂、脱衣所、洗面所、トイレでの危害及びヒヤリ・ハット経験の原因となった製品等について、性別及び年齢域ごとに経験者数をまとめた結果である。

表 2_4_2 風呂、脱衣所、洗面所、トイレでの危害及びヒヤリ・ハット経験
(製品等×性別・年齢域)

		風呂場の床	浴槽	バスマット	ドア	洗面台
【全 体】		373	289	81	37	18
男 性	総数	156	141	31	13	8
	70～74 歳	46	45	9	6	1
	75～79 歳	43	35	8	3	4
	80～84 歳	39	34	8	3	0
	85～89 歳	20	18	5	1	1
	90～94 歳	5	6	1	0	2
	95 歳以上	3	3	0	0	0
	女 性	総数	217	148	50	24
70～74 歳		67	26	6	7	1
75～79 歳		43	30	17	6	2
80～84 歳		49	38	16	7	0
85～89 歳		37	38	8	3	4
90～94 歳		19	14	3	1	3
95 歳以上		2	2	0	0	0

※製品等は、危害及びヒヤリ・ハット経験の原因となったもののうち、多かった上位 5 位までのものである。

表 2_4_3 は、風呂、脱衣所、洗面所、トイレでの危害及びヒヤリ・ハット経験の事例について、性別及び年齢域ごとにまとめた結果である。

表 2_4_3. 風呂、脱衣所、洗面所、トイレでの危害及びヒヤリ・ハット経験
(性別・年齢域×事例)

	n 数	男性						女性							
		70 ～ 74 歳	75 ～ 79 歳	80 ～ 84 歳	85 ～ 89 歳	90 ～ 94 歳	95 歳 以上	計	70 ～ 74 歳	75 ～ 79 歳	80 ～ 84 歳	85 ～ 89 歳	90 ～ 94 歳	95 歳 以上	計
転倒	646	77	71	63	38	13	4	266	90	79	96	77	35	3	380
気分が悪くなった	27	2	3	7	3	1	0	16	3	3	2	2	1	0	11
動けなくなった	26	1	1	3	5	1	0	11	2	2	6	3	2	0	15
ぶつけた	22	2	4	1	1	1	0	9	1	3	3	4	2	0	13
眠った	20	4	4	3	1	1	0	13	3	2	1	0	1	0	7

※事例については風呂、脱衣所、洗面所、トイレにおいて多かった上位5位までのものである。

表 2_4_4 に詳細事例を示す。

表 2_4_4. 風呂、脱衣所、洗面所、トイレでの危害及びヒヤリ・ハット経験の詳細事例

No	製品名等	事例キーワード	性別・年齢域別	事例詳細
1	浴槽等	転倒 (滑った)	男性 70～74歳	入浴中に足を滑らせてしまい、浴槽に頭をぶつけてしまった。その時は特に出血もしなかったようで、病院にも行かず過ごしていたが、次第に手がしびれると言う事が増え、歩いていてもまっすぐ歩けないようになり、病院で検査をしてもらおうと、頭に血が溜まってしまっていることがわかり、緊急オペをすることになった。
2	浴槽等	転倒 (引っかけた)	男性 70～74歳	浴槽が高いので足を引っかけた転倒しそうになった。
3	浴槽等	転倒 (滑った)	女性 70～74歳	浴槽に入ろうとした時、滑って転倒。浴槽に入っていなかったので溺れることはなかったが、洗い場で腰を打撲。2か月は歩くのに杖をついていた。
4	浴槽等	転倒 (滑った)	男性 75～79歳	浴槽から立ち上がって出ようとしたときに、足を滑らせてバランスを崩し、壁に手をつけて何とか体勢を維持した。
5	浴槽等	転倒 (打った)	男性 75～79歳	掃除をしているとき、浴槽のふちに手をかけていたら、滑らせてしまい胸を打って青あざが出来た。
6	浴槽等	眠った	男性 75～79歳	祖父がなかなか風呂から上がってこないことに気づいたので見に行ったら、湯船につかったまま眠ってしまっていた。身体がかなり傾いていたので、気づかなかつたら溺れていたかもしれない。
7	浴槽等	動けなくなった	男性 75～79歳	浴槽に入り体が温まって出ようとしたら、急に体に力がなくなり、溺れそうになった。
8	浴槽等	動けなくなった	女性 75～79歳	湯船から立ち上がる時に、足に力が入らず滑って溺れそうになり、怖い思いをした。
9	浴槽等	気分が悪くなった (のぼせた)	女性 75～79歳	お風呂に入ったままのぼせて意識不明になり、救急車で病院に運ばれた。
10	浴槽等	気分が悪くなった (のぼせた)	女性 80～84歳	あまりに風呂から出て来ないので見に行ったら、のぼせて浴槽から立ち上がれなくなっていた。
11	浴槽等	転倒	男性 85～89歳	浴槽につかろうと縁につかまって片足を浴槽に入れた瞬間にぐらついて体を支えられなくなり、転倒しかけた。
12	浴槽等	冷水に入った	女性 85～89歳	追いだきをしたつもりで、冷たい湯船に入浴していた。
13	浴槽等	やけど (追い炊き)	女性 90～94歳	気がつかないうちに追いだきしながら入浴。背中に追いだきの熱が当たり、やけどをした。
14	浴槽等	眠った	女性 90～94歳	うたた寝をしてしまい、溺れかけた。注意していた姉が気づいて事なきを得た。自力で這い上がった。
15	浴槽等	沈んだ	男性 95歳以上	浴槽のふちに左手でつかまっていたが、身体の右側半分がお湯につかりかかって、溺れかかっていた。私がすぐに引き上げたため、大事には至らなかった。
16	風呂場の床	転倒	男性 70～74歳	購入したばかりのスリッパで風呂場に入った際に転倒し、尾てい骨を強打して病院に行った。

No	製品名等	事例キーワード	性別・年齢域別	事例詳細
17	風呂場の床	すのこの破損	男性 70～74歳	風呂場で使っているすのこが劣化して割れた。運良くけがはしなかったがヒヤッとした。
18	風呂場の床	転倒(滑った)	男性 70～74歳	祖父が風呂場の床で転んでしまい、右足のひざと腰を痛めてしまった。病院には行かなかったが、一か月ほど回復に時間がかかった。石鹸が浴槽の床に落ちていたのが主な原因だったようで、以後気をつけている。
19	風呂場の床	転倒(滑った)	女性 75～79歳	祖母がお風呂で体を洗おうと、洗い場にある椅子に座ろうとした際、滑って背骨を骨折してしまい、2ヶ月入院してしまった。
20	風呂場の床	動作の際にけがをした	女性 75～79歳	風呂掃除でぎっくり腰をした。
21	風呂場の床	転倒(滑った)	女性 80～84歳	風呂から出ようと椅子から立ち上がろうとして滑って転倒。頭を打ちたんこぶが出来た。
22	風呂場の床	転倒(滑った)	女性 80～84歳	ウレタンの暖かいマットが、固定していたのにも関わらず入浴中に外れてしまい、滑って浴槽に手首をぶつけて怪我をした。
23	風呂場の床	やけど(温め過ぎ)	女性 80～84歳	浴室の床が冷たいので、事前に電気ストーブで温めすぎて、足の裏に軽いやけどを負った。
24	風呂場の床	転倒(滑った)	男性 85～89歳	シャンプーもしくは石鹸の成分が床に残っていたらしく、洗濯物を取ろうとスリッパを履いたまま、浴室に入ったところ後ろ向きに滑りそうになったが、壁に手をついて、けがをしないで済んだ。
25	入浴剤	気分が悪くなった	男性 85～89歳	入浴剤を入れすぎて窒息しそうになった。
26	バスマット	転倒(引っかかった)	男性 80～84歳	バスマットに引っかかり、お風呂のドアに激突したが、軽い打撲で済んだ。
27	バスマット	転倒(引っかかった)	男性 85～89歳	風呂場でバスマットを敷いていたが、古くて端がめくれており、底に足を引っかけて転倒し、膝のお皿を骨折してしまった。
28	トイレのドア	転倒(つまずくいた)	女性 75～79歳	母がトイレから出る時に、トイレと廊下の段差につまずいたが、なんとか倒れずにすんだのでケガはしなかった。
29	トイレのドア	転倒	女性 80～84歳	トイレのドアを開けたときに転び、肋骨を折った。
30	トイレのドア	ぶつけた	女性 85～89歳	ドアを開けたときに、角に足をぶつけてひどくすりむいた。
31	温水洗浄便座	やけど	男性 75～79歳	余りにも長くトイレに入っていたために、低温やけどを起こした。尿が中々出にくらしく、いつもこのリスクがある。
32	便座	動けなくなった	女性 85～89歳	足の筋力が弱り、洋式便座から立ち上がれないことが多くなった。介護サービス会社から手すりを借りて設置して改善した。

(5) 寝室、ベッド、寝具での危害及びヒヤリ・ハット経験

図 2_5_1 は寝室、ベッド、寝具での危害及びヒヤリ・ハット経験について、その原因となった製品等ごとに危害程度の件数をまとめた結果である。

寝室、ベッド、寝具での危害及びヒヤリ・ハット経験があると回答した人数は 3,000 人中 596 人 (19.9%) であった。製品・場所別に見ると「ベッド」が 267 人 (44.8%) と最も多く、次いで「湯たんぽ／あんか」103 人 (17.3%)、「布団」77 人 (12.9%) と続く。「危害経験がある」(「けがをして入院した」「けがをして病院へ行った」「けがをしたが病院へは行かなかった」)との回答は、「ベッド」が 124 人と最も多く、次いで「湯たんぽ／あんか」64 人と続く。「その他」には、家具、カイロなどが含まれている。

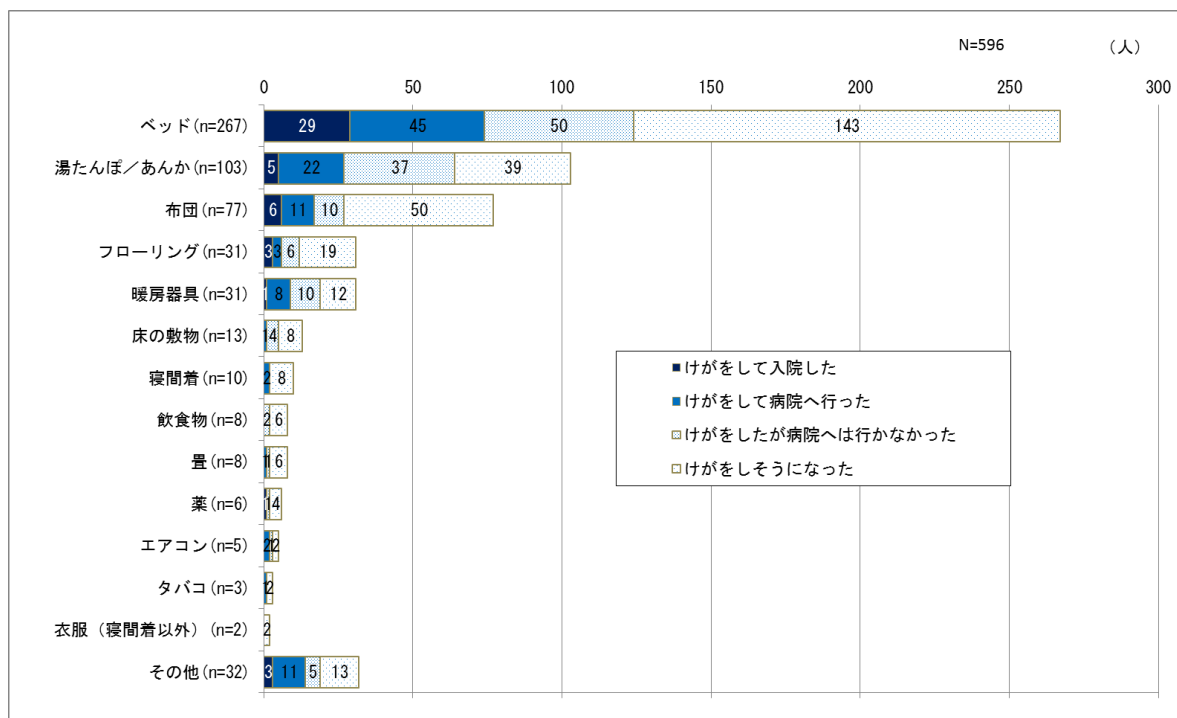


図 2_5_1. 寝室、ベッド、寝具での危害及びヒヤリ・ハット経験の製品等別の危害程度

表 2_5_1 は、寝室、ベッド、寝具での危害及びヒヤリ・ハット経験についてその原因となった製品等で多かったもの上位 5 位までについて、事例ごとに経験者数をまとめた結果である。

表 2_5_1. 寝室、ベッド、寝具での危害及びヒヤリ・ハット経験（製品等×事例）

		事例					
		1 位（人）		2 位（人）		3 位（人）	
製品等	ベッド	転倒	210	ぶつけた	14	挟んだ	8
	湯たんぽ/あんか	やけど	91	—	—	—	—
	布団	転倒	46	動けなくなった	6	足がつった	5
	フローリング	転倒	24	—	—	—	—
	暖房器具	やけど	19	引火・燃焼	3	脱水症状	2

※詳細不明及び 1 件しかない事例については省略した。

表 2_5_2 は、寝室、ベッド、寝具での危害及びヒヤリ・ハット経験の原因となった製品等について、性別及び年齢域ごとに経験者数をまとめた結果である。

表 2_5_2. 寝室、ベッド、寝具での危害及びヒヤリ・ハット経験
(製品等×性別・年齢域)

		ベッド	湯たんぽ／あんか	布団	フローリング	暖房器具
	【全体】	267	103	77	31	31
男 性	総数	100	48	33	13	15
	70～74 歳	29	14	9	6	4
	75～79 歳	22	12	4	1	1
	80～84 歳	21	9	10	3	3
	85～89 歳	12	10	6	3	6
	90～94 歳	11	3	1	0	1
	95 歳以上	5	0	3	0	0
	総数	167	55	44	18	16
女 性	70～74 歳	29	14	13	6	2
	75～79 歳	27	11	10	0	2
	80～84 歳	49	12	10	5	2
	85～89 歳	39	13	8	6	8
	90～94 歳	19	4	2	1	2
	95 歳以上	4	1	1	0	0

※製品等は、危害及びヒヤリ・ハット経験の原因となったもののうち多かった上位 5 位までのものである。

表 2_5_3 は、寝室、ベッド、寝具での危害及びヒヤリ・ハット経験の事例について、性別及び年齢域ごとにまとめた結果である。

表 2_5_3. 寝室、ベッド、寝具での危害及びヒヤリ・ハット経験（性別・年齢域×事例）

	n 数	男性							女性						
		70 ～ 74 歳	75 ～ 79 歳	80 ～ 84 歳	85 ～ 89 歳	90 ～ 94 歳	95 歳 以上	計	70 ～ 74 歳	75 ～ 79 歳	80 ～ 84 歳	85 ～ 89 歳	90 ～ 94 歳	95 歳 以上	計
転倒	320	26	25	26	18	12	5	112	40	32	61	47	24	4	208
やけど	116	16	13	6	12	2	0	49	16	12	12	20	7	0	67
ぶつけた	20	0	2	1	1	0	1	5	2	1	5	3	3	1	15
動けなくなった	13	0	2	1	1	2	1	7	1	1	2	1	1	0	6
誤飲・誤嚥	11	0	0	1	1	0	0	2	1	1	2	2	3	0	9

※事例については、寝室、ベッド、寝具において多かった上位5位までのものである。

表 2_5_4 に詳細事例を示す。

表 2_5_4. 寝室、ベッド、寝具での危害及びヒヤリ・ハット経験の詳細事例

No	製品名等	事例 キーワード	性別・年齢域別	事例詳細
1	ベッド	動作の際にけがをした	女性 70～74歳	(電動)ベッドが下がりきっていないのに、立ち上がって捻挫した。
2	ベッド	転倒 (よろけた)	女性 80～84歳	夜中トイレに起きた時、立ち上がろうとしてよろけて、ベッドの縁に手をかけたが、手首を骨折した。
3	ベッド	転落(動けなくなった)	女性 80～84歳	ベッドから起き上がろうとしたが起き上がれず、下にずり落ちた。
4	ベッド	転倒 (つまずいた)	女性 85～89歳	ベッドから降りるときにつまずいて、腰を打って病院に行った。
5	ベッド	転落	男性 90～94歳	テレビを座って見ていて睡魔に襲われて、ベッドと壁の隙間に落ちた。
6	ベッド	転倒	男性 90～94歳	ベッドから立ち上がる際に転倒。今は補助バーを設置して転倒防止。
7	布団	転倒(引っかかった)	女性 75～79歳	布団のカバーの網目に足の爪が引っかかり、つんのめって転びそうになった。
8	布団	動けなくなった	女性 75～79歳	足を痛めていて布団から起きられず、呼吸も出来なくなり誰にも助けを求められなかった。
9	布団	動けなくなった	男性 80～84歳	布団から起き上がれずにバランスを崩して手首をひねった。
10	布団	動けなくなった	男性 85～89歳	寒さのためか、冬に心筋梗塞がおき、布団から動けなくなっていた。病院に救急車で運ばれた。
11	布団	転倒 (引っかけた)	女性 85～89歳	トイレに行って戻ってきたとき、布団に引っかかってこけた。
12	布団	転倒 (つまずいた)	女性 95歳以上	布団につまずいて倒れた時に筆筒とテレビの間の隙間にはまり込み自分では脱出できず、まる一日倒れた状態だった。
13	湯たんぽ ／あんか	やけど	男性 80～84歳	軽い低温やけどをしてしまった。寝返りがうてないのに寒さのあまりあんかを使ってしまったらしい。
14	湯たんぽ ／あんか	やけど (消し忘れ)	女性 85～89歳	あんかをつけたまま寝てしまい、ふくらはぎを低温火傷し皮膚科で治療をうけた。
15	湯たんぽ ／あんか	熱中症 (消し忘れ)	女性 80～84歳	いつもは、あんかを途中で切っていたが、その日は忘れて明け方に熱中症のようになった。
16	湯たんぽ ／あんか	やけど(破損)	女性 70～74歳	背中に入れていた湯たんぽが破けて、中の熱湯で背中全体をやけどした。
17	湯たんぽ ／あんか	やけど	男性 85～89歳	寒いのでゆたんぽに右足を触れていたところ、水ぶくれして、病院に行ったら低温やけどだった。
18	湯たんぽ ／あんか	やけど (湯漏れ)	女性 85～89歳	湯たんぽの蓋がうまくしまっておらず、お湯が漏れて軽いやけどをした。

No	製品名等	事例 キーワード	性別・年齢域別	事例詳細
19	脚立	転倒（転落）	男性 80～84歳	クローゼットの上段の物を取ろうとして脚立に上ったが、ストッパーがしっかりとかかっていたため脚立が開いてしまい、尻もちをつくような感じで尾てい骨を打撲した。
20	床・畳・敷物	転倒・つまづく	男性 85～89歳	床のカーペットがめくれている事に気が付かず、転倒した。足の膝を擦りむいた程度だったため大事には至らなかった。
21	床・畳・敷物	転倒（滑った）	男性 85～89歳	起き上がろうとして畳で滑って転んで、おでこをけがした。
22	床・畳・敷物	転倒（つまずいた）	女性 90～94歳	暗い所で敷物につまずいて、顔やおでこを周りの家具にぶつけて打ち身であざができた。
23	寝間着	転倒（つまずいた）	女性 70～74歳	祖母が寝間着につまずいて祖父に倒れ掛かった。
24	寝間着	転倒（踏んだ）	女性 80～84歳	母が起き上がろうとしたときに、寝間着の裾を踏んでいて転倒しそうになった。
25	寝間着	転倒（バランスを崩した）	女性 85～89歳	ベッド脇でパジャマのズボンを着替えようとして、立位だったのでバランスを崩して床に転倒した。しゃがみこむような体勢だったので、ケガをせずに済んだ。
26	暖房器具	脱水症状（暖め過ぎた）	女性 75～79歳	暖め過ぎて、脱水症状寸前になった。
27	暖房器具	引火・燃焼（消し忘れ）	男性 80～84歳	母によると朝起きたら黒く焦げた布団が畳まれていたそうだ。父は詳しいことを話さないで詳細はわからないが、おそらくストーブをつけたまま寝てしまったのかと思う。幸いにも火事にはならなかった。
28	エアコン	体調不良（消し忘れ）	女性 75～79歳	タイマーがうまくセットできず、つけっ放しで寝てしまい足が冷えきってつってしまい、つまずいた。

(6) 玄関、階段、廊下での危害及びヒヤリ・ハット経験

図 2_6_1 は自宅の玄関、階段、廊下での危害及びヒヤリ・ハット経験について、その原因となった製品ごとに危害程度の件数をまとめた結果である。

自宅の玄関、階段、廊下での危害及びヒヤリ・ハット経験があると回答した人数は、3,000 人中 1,004 人 (33.5%) であった。製品等別に見ると「階段」が 445 人 (44.3%) と最も多く、次いで「玄関のたたき/床」194 人 (19.3%)、「スリッパ」91 人 (9.1%) と続く。「危害経験がある」(「けがをして入院した」「けがをして病院へ行った」「けがをしたが病院へは行かなかった」) との回答は、「階段」が 251 人と最も多く、次いで「玄関のたたき/床」81 人と続く。「その他」には、傘、椅子などが含まれている。

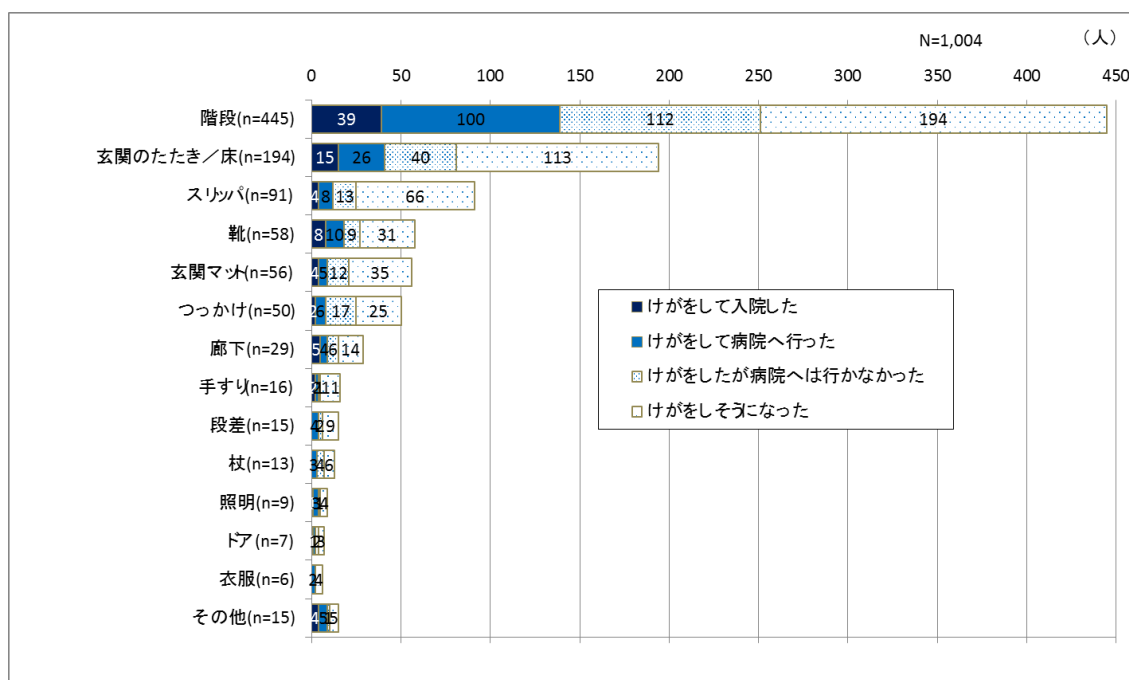


図 2_6_1. 玄関、階段、廊下での危害及びヒヤリ・ハット経験の製品等別の危害程度

表 2_6_1 は、自宅の玄関、階段、廊下での危害及びヒヤリ・ハット経験についてその原因となった製品等で多かったもの上位 5 位までについて、事例ごとに経験者数をまとめた結果である。

表 2_6_1. 玄関、階段、廊下での危害及びヒヤリ・ハット経験（製品等×事例）

		事例					
		1 位（人）		2 位（人）		3 位（人）	
製品等	階段	転倒	415	ぶつけた	3	—	—
	玄関のたたき／床	転倒	182	ぶつけた	3	—	—
	スリッパ	転倒	81	—	—	—	—
	靴	転倒	38	—	—	—	—
	玄関マット	転倒	53	—	—	—	—

※詳細不明及び 1 件しかない事例については省略した。

表 2_6_2 は自宅の玄関、階段、廊下での危害及びヒヤリ・ハット経験の原因となった製品等について、性別及び年齢域ごとに経験者数をまとめた結果である。

表 2_6_2. 玄関、階段、廊下での危害及びヒヤリ・ハット経験（製品等×性別・年齢域）

		階段	玄関のたたき／床	スリッパ	靴	玄関マット
	【全体】	445	194	91	58	56
男性	総数	161	70	40	37	15
	70～74 歳	49	11	15	18	2
	75～79 歳	32	12	7	5	1
	80～84 歳	40	22	9	10	3
	85～89 歳	25	16	8	3	5
	90～94 歳	8	8	1	1	4
	95 歳以上	7	1	0	0	0
女性	総数	284	124	51	21	41
	70～74 歳	91	23	14	10	11
	75～79 歳	57	19	12	2	6
	80～84 歳	57	31	14	8	12
	85～89 歳	52	36	11	1	9
	90～94 歳	25	11	0	0	3
	95 歳以上	2	4	0	0	0

※製品等は、危害及びヒヤリ・ハット経験の原因となったもののうち多かった上位 5 位までのものである。

表 2_6_3 は、自宅の玄関、階段、廊下での危害及びヒヤリ・ハット経験の事例について、性別及び年齢域ごとにまとめた結果である。

表 2_6_3. 玄関、階段、廊下での危害及びヒヤリ・ハット経験（性別・年齢域×事例）

	n 数	男性							女性						
		70 ～ 74 歳	75 ～ 79 歳	80 ～ 84 歳	85 ～ 89 歳	90 ～ 94 歳	95 歳 以上	計	70 ～ 74 歳	75 ～ 79 歳	80 ～ 84 歳	85 ～ 89 歳	90 ～ 94 歳	95 歳 以上	計
転倒	886	86	60	81	61	23	8	319	161	109	135	111	45	6	567
ぶつけた	12	2	2	3	0	2	0	9	0	0	1	1	1	0	3
動作の際に けがをした	5	1	0	0	0	0	0	1	0	2	1	1	0	0	4
挟んだ	4	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	1	0	4
やけど	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0

※事例については自宅の玄関、階段、廊下において多かった上位5位までのものである。

表 2_6_4 に詳細事例を示す。

表 2_6_4. 玄関、階段、廊下での危害及びヒヤリ・ハット経験の詳細事例

No	製品名等	事例 キーワード	性別・年齢域別	事例詳細
1	階段	転倒（転落）	男性 70～74歳	酔っぱらって家の階段から転げ落ち、頭部に大きなコブを作るなど体のあちこちを打撲した。
2	階段	ぶつけた	女性 70～74歳	足が上がりきってなく、足指を階段の踏み面の端にぶつけて骨折した。
3	階段	転倒（滑った）	女性 70～74歳	手すりを持たずに階段を降りていたため、スリッパが滑った。
4	階段	転倒（滑った）	女性 70～74歳	手すりや滑り止めのない階段で足を滑らせ腰を打った。ワックスのかかった木製の床面と、厚手の靴下で滑りやすかった。
5	階段	転倒 （踏み外した）	女性 70～74歳	階段を降りる時に最後の一段目を踏み外し、尻もちをついて腰を痛めた。様子を見ていたが痛みが取れずに病院へ行ったら腰の骨にヒビが入っていた。
6	階段	転倒 （踏み外した）	女性 70～74歳	階段の上にある突っ張り棒に洗濯物を干そうとして、足を踏み外し顔に擦り傷等を作った。
7	階段	転倒	女性 75～79歳	急いで階段を降りて来て、階段が二重に見えたため一段飛ばしてしまい、手をつき手首を痛め病院に行った。
8	階段	転倒（転落）	女性 75～79歳	階段の下から二段目より転落。本人は階段が終わったものと錯覚したもよう。足の指をひねり通院。
9	階段	転倒（転落）	女性 80～84歳	階段から降りようとして手すりにつかまりそこない転落し、救急車で搬送。胸と腰を圧迫骨折して約2か月入院。
10	階段	転倒（転落）	女性 85～89歳	階段を降りるとき、たたらを踏んで落ちそうになった。手すりにつかまって事なきを得たが、手を打撲してあざができた。
11	階段・スリッパ	転倒（滑った）	女性 80～84歳	階段で滑って転びそうになった。そばにいて受け止めたので怪我はなかった。
12	玄関・スリッパ	転倒（バランスを崩した）	女性 70～74歳	玄関でスリッパをうまく脱げなくてバランスを崩して転んだ。手首を強く打って骨折した。
13	玄関・スリッパ	転倒 （もつれた）	男性 80～84歳	帰宅して玄関から上がりスリッパを履こうとしたところ、足がもつれて既に履いたほうのスリッパを踏んでしまい転んでしまった。
14	玄関マット	転倒（引っかけた）	男性 75～79歳	玄関マットに引っかかってしまい、前のめりに転んだ。
15	玄関マット	転倒（踏み外した）	女性 70～74歳	玄関マットがずれて一段低い段差が隠れていた。踏み外し転倒した。
16	玄関マット	転倒（滑った）	女性 85～89歳	買い物から帰ってきて部屋へ上がる時に玄関マットで滑って転びそうになった。マットは滑り止めがしてあったが危なかった。
17	玄関のたたき	転倒（引っかかった）	男性 80～84歳	たたきから廊下へ上がろうとしたが、足が思うように上がらず、かまちに足を引っかけて、前のめりに転倒しそうになった。
18	つっかけ	転倒・引っかけ	男性 75～79歳	玄関でつっかけを脱いで家に入る際、うまく脱げず前のめりになって手をすりむいた。
19	つっかけ	転倒（引っかかった）	男性 80～84歳	父が家から外に出る時、つっかけにズボンのすそが引っかかり、転びそうになってドアに頭をぶつけ、たんこぶができた。
20	靴	転倒（バランスを崩した）	男性 70～74歳	玄関で靴を履こうと前かがみになったらバランスを崩して転倒。けがはなかったが、椅子を置いて座りながら履くようしてもらった。

No	製品名等	事例 キーワード	性別・年齢域別	事例詳細
21	靴	転倒（ぶつけた）	男性 75～79歳	靴を履こうとして玄関ドアに激突して頭部を打った。
22	照明・椅子	転倒（バランスを崩した）	女性 70～74歳	電球をつけ替えるときに、回転椅子に乗ってバランスを崩して床に落ちた。
23	照明・段差	転倒（つまずいた）	女性 90～94歳	夜間トイレに移動中、明かりをつけずにいたため部屋と廊下の僅かの段差につまずいて転倒。
24	手すり	転倒（つかみ損なった）	女性 75～79歳	手すりがあったと思ったら無くて滑ってしまった。
25	手すり	転倒（調整不良）	女性 80～84歳	手すりが緩んでいたらしく回ってしまった。
26	杖	滑った	女性 80～84歳	杖をつこうとして先が滑り手首をひねった。湿布をして様子を見た。

(7) ベランダ、庭での危害及びヒヤリ・ハット経験

図 2_7_1 は自宅のベランダ、庭での危害及びヒヤリ・ハット経験について、その原因となった製品ごとに危害程度の件数をまとめた結果である。

ベランダ、庭での危害及びヒヤリ・ハット経験があると回答した人数は、3,000 人中 604 人 (20.1%) であった。製品等別に見ると、「段差」が 131 人 (21.7%) と最も多く、次いで「踏み台／脚立」99 人 (16.4%)、「つかかけ」80 人 (13.2%) と続く。「危害経験がある」(「けがをして入院した」「けがをして病院へ行った」「けがをしたが病院へは行かなかった」との回答は、「段差」が 57 人と最も多く、次いで「踏み台／脚立」47 人と続く。「その他」には、鋸(電動)などが含まれている。

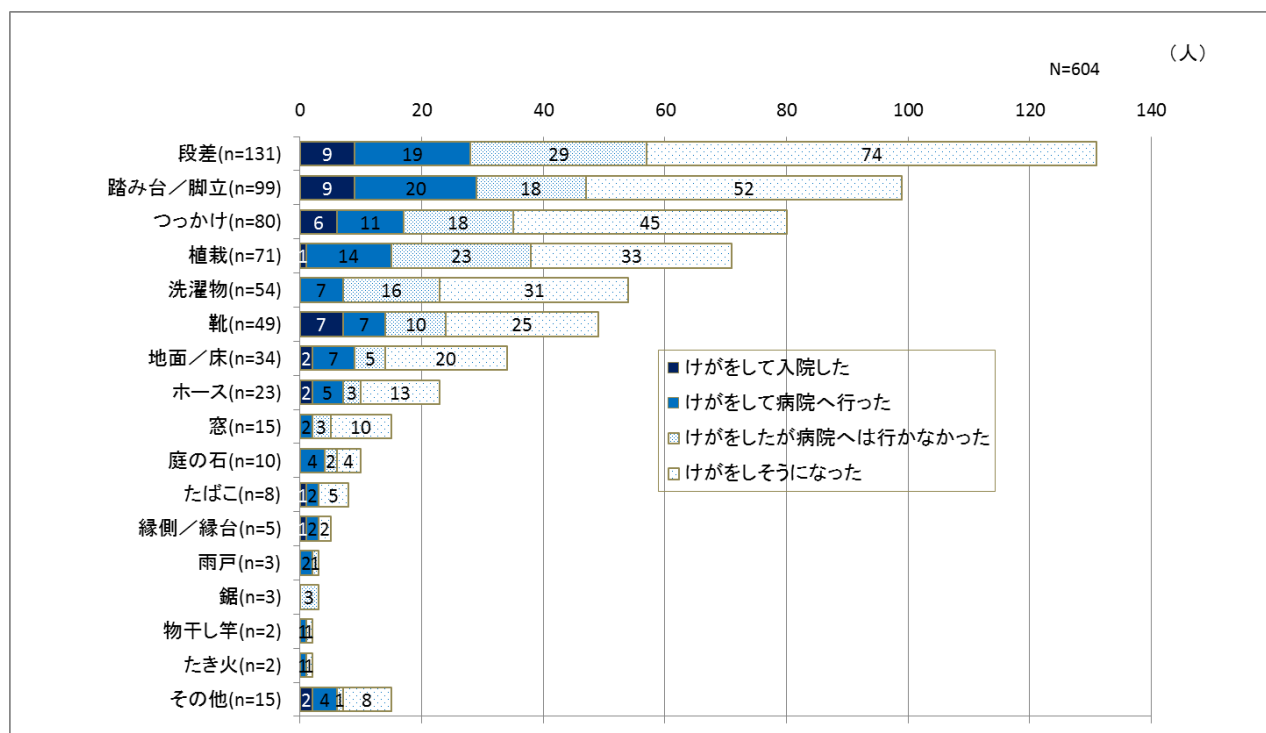


図 2_7_1. ベランダ、庭での危害及びヒヤリ・ハット経験の製品等別の危害程度

表 2_7_1 は、自宅のベランダ、庭での危害及びヒヤリ・ハット経験についてその原因となった製品等で多かったもの上位 5 位までについて、事例ごとに経験者数をまとめた結果である。

表 2_7_1. ベランダ、庭での危害及びヒヤリ・ハット経験（製品等×事例）

		事例					
		1 位 (人)		2 位 (人)		3 位 (人)	
製品等	段差	転倒	126	—	—	—	—
	踏み台/脚立	転倒	87	脚立が壊れた	2	—	—
				脚立が倒れた	2		
	つっかけ	転倒	65	動作の際にけがをした	2	—	—
	植栽	転倒	28	切った	13	動作の際にけがをした	5
洗濯物	転倒	32	動作の際にけがをした	8	ぶつけた	6	

※詳細不明及び 1 件しかない事例については省略した。

表 2_7_2 は自宅のベランダ、庭での危害及びヒヤリ・ハット経験の原因となった製品等について、性別及び年齢域ごとに経験者数をまとめた結果である。

表 2_7_2. ベランダ、庭での危害及びヒヤリ・ハット経験（製品等×性別・年齢域）

		段差	踏み台／脚立	つっかけ	植栽	洗濯物
	【全体】	131	99	80	71	54
男性	総数	52	71	31	37	7
	70～74 歳	8	23	12	9	1
	75～79 歳	11	17	8	7	2
	80～84 歳	10	14	5	10	1
	85～89 歳	15	14	5	5	2
	90～94 歳	8	2	1	4	1
	95 歳以上	0	1	0	2	0
女性	総数	79	28	49	34	47
	70～74 歳	21	9	7	4	16
	75～79 歳	18	4	11	10	7
	80～84 歳	17	7	14	7	17
	85～89 歳	18	5	13	11	5
	90～94 歳	4	3	4	2	2
	95 歳以上	1	0	0	0	0

※製品等は、危害及びヒヤリ・ハット経験の原因となったもののうち多かった上位 5 位までのものである。

表 2_7_3 は、自宅のベランダ、庭での危害及びヒヤリ・ハット経験の事例について、性別及び年齢域ごとにまとめた結果である。

表 2_7_3. ベランダ、庭での危害及びヒヤリ・ハット経験（性別・年齢域×事例）

	n 数	男性							女性						
		7 0 ～ 7 4 歳	7 5 ～ 7 9 歳	8 0 ～ 8 4 歳	8 5 ～ 8 9 歳	9 0 ～ 9 4 歳	9 5 歳 以上	計	7 0 ～ 7 4 歳	7 5 ～ 7 9 歳	8 0 ～ 8 4 歳	8 5 ～ 8 9 歳	9 0 ～ 9 4 歳	9 5 歳 以上	計
転倒	452	54	42	36	43	14	4	193	55	52	74	54	22	2	259
動作の際に けがをした	18	1	1	3	0	0	0	5	2	6	3	2	0	0	13
切った	16	4	2	1	2	1	0	10	2	1	2	1	0	0	6
ぶつけた	13	2	0	2	0	1	0	5	2	1	3	1	1	0	8
挟んだ	6	1	0	1	0	0	1	3	0	1	1	1	0	0	3

※事例については自宅のベランダ、庭において多かった上位5位までのものである。

表 2_7_4 に詳細事例を示す。

表 2_7_4. ベランダ、庭での危害及びヒヤリ・ハット経験の詳細事例

No	製品名等	事例 キーワード	性別・年齢域別	事例詳細
1	段差・玄関先	転倒（踏み外した）	女性 70～74歳	玄関先が結構な段差になっているので、ちょっと油断すると足を踏み外しやすい。実際に転倒して擦り傷を負った。
2	段差・ベランダ	転倒（よろけた）	女性 75～79歳	母がベランダから室内に上がろうとした時に、自分が思っていたより段差があったので、足が上がりきらず、よろけるように部屋に倒れこんだ。
3	段差・庭	転倒（つまずいた）	男性 80～84歳	庭の手入れをしていた際に地面の凹凸に気づかず、つまずいてしまった。
4	段差・庭	転倒（つまずいた）	女性 85～89歳	暗くなってから庭の物置に行こうとして、段差に足を取られて転倒し、けがをした。
5	段差・洗濯物	転倒（つまずいた）	男性 80～84歳	洗濯物を干そうとして段差に足を引っ掛けて転びそうになった。
6	洗濯物	ひねる	女性 75～79歳	重い洗濯物を干した時に腰をひねって痛めた。湿布を貼って安静を指導した。
7	洗濯物	動作の際にけがをした	女性 75～79歳	洗濯竿が少し高いため、何度も手を伸ばしていた所右脇の筋を痛めてしまった
8	洗濯物	転倒（バランスを崩した）	男性 85～89歳	洗濯物を入れようとして、風にあおられバランスを崩して転びそうになった。手すりにつかまって転ばずにすんだ。
9	洗濯物・踏み台	転倒（転落）	女性 70～74歳	ベランダで洗濯物を干していた際、踏み台から落ちて手すりですり打ち、肋骨を骨折した。
10	洗濯物・踏み台	転倒（バランスを崩した）	男性 80～84歳	父がベランダで洗濯物を干す時、いつも使っている踏み台のようなものに乗った時バランスを崩して、置いてあったエアコンの室外機にぶつかりそうになった。
11	脚立・踏み台等	転落	男性 70～74歳	庭の手入れ中に脚立から落下、顔面骨折した。
12	脚立・踏み台等	転倒（脚立が倒れた）	女性 70～74歳	庭の木の枝を切ろうと脚立に上ったら脚立が倒れ、転倒。下に落ちていた枝が足の太ももにささり、何ミリか縫う手術をした。
13	脚立・踏み台等	転倒（バランスを崩した）	男性 85～89歳	祖父が脚立に上がり剪定していた時、バランスを崩し落ちてしまい、病院へ行った。
14	脚立・踏み台等	転倒（誤使用）	男性 80～84歳	脚立のロックがかかっておらず、後ろ向きに倒れてしまった。腰を強く打ち、骨にひびが入り全治1ヶ月。
15	脚立・踏み台等	転倒（転落）	男性 85～89歳	自宅のブドウの袋かけをしていて脚立から転落、一人暮らしなので電話があるところまで這って行って電話で救急車を呼び搬送された。全治2か月だった。
16	脚立・踏み台等	転倒（踏み外した）	男性 85～89歳	梯子を降りるとき一段踏み違えて膝を打ち、打撲と腰痛になった。
17	脚立・踏み台等	転倒（バランスを崩した）	女性 85～89歳	バランスを崩した父の下敷きになった母が腕の筋を伸ばした。
18	脚立・踏み台等	転倒（バランスを崩した）	男性 70～74歳	柿の木の柿を取るのに、塀の上って作業していて、塀から降りるときにバランスを崩して着地の時に転んでしまった。軽い打撲程度で済んだ。

No	製品名等	事例 キーワード	性別・年齢域別	事例詳細
19	窓	動作の際に けがをした	男性 75～79歳	窓拭きをしていたら、バランスを崩して腰をひねった。
20	窓	転倒（バラン スを崩した）	男性 80～84歳	窓を拭こうとして、バランスを崩して転んでしまった。
21	床	転倒 （滑った）	女性 70～74歳	雨上がりのベランダでベランダ履きのサンダルが滑って転び そうになり、手をつけて手首をねん挫した。
22	つっかけ	転倒（引っか かった）	女性 70～74歳	後ろ向きに歩きながら草むしりなどの作業をしていたため、つ っかけが引っかかり、そのまま後ろに転倒して腰を強打。その まま病院に入院するはめになった。
23	つっかけ	転倒（引っか かった）	女性 80～84歳	庭掃除をしている時につっかけを履いていて、庭石に引っかか った。
24	つっかけ	転倒 （滑った）	女性 90～94歳	雨上がりの庭の敷石上でつっかけが滑り、お尻から転倒し大腿 骨を骨折した。
25	靴	転倒	女性 80～84歳	靴ひもがゆるんだので直そうとしたら、前につんのめり、でん ぐり返しをしそうになった。
26	ホース	転倒	男性 85～89歳	ホースが蛇口から抜けず力いっぱい引っ張って転倒。
27	ホース	転倒（つまず いた）	女性 90～94歳	夏、日課となっている水やり中、ホースにつまずき、転倒。置 いてあったブリキのバケツにぶつかり4cmほど切った。
28	植栽	切った	男性 75～79歳	1人庭でチェーンソーを使い剪定していたら何かの拍子に薬指 を3分の2まで切断した。救急車を自ら呼んだ。
29	植木鉢	動作の際に けがをした	男性 80～84歳	植木鉢を動かそうとして、ぎっくり腰のような症状になってしま った。痛みが続くので後にレントゲン撮影をしたら、圧迫骨 折をしていた。
30	植木鉢	物を落とし た	男性 90～94歳	盆栽の手入れの際に植木鉢を落とす。
31	切り株	転倒（つまず いた）	男性 95歳以上	木の切り株につまずいて、転倒しそうになったが、私が抱きか かえたので、大事には至らなかった。

(8) 集合住宅の共用部での危害及びヒヤリ・ハット経験

図 2_8_1 は集合住宅の共用部での危害及びヒヤリ・ハット経験について、その原因となった製品等ごとに危害程度の件数をまとめた結果である。

集合住宅の共用部での危害及びヒヤリ・ハット経験があると回答した人数は、3,000 人中 388 人 (12.9%) であった。製品等別に見ると「エントランス」が 108 人 (27.8%) と最も多く、次いで「階段」101 人 (26.0%)、「廊下」66 人 (17.0%) と続く。「危害経験がある」(「けがをして入院した」「けがをして病院へ行った」「けがをしたが病院へは行かなかった」)との回答は、「エントランス」が 40 人と最も多く、次いで「階段」が 39 人と続く。「その他」には、段差、ドアなどが含まれている。

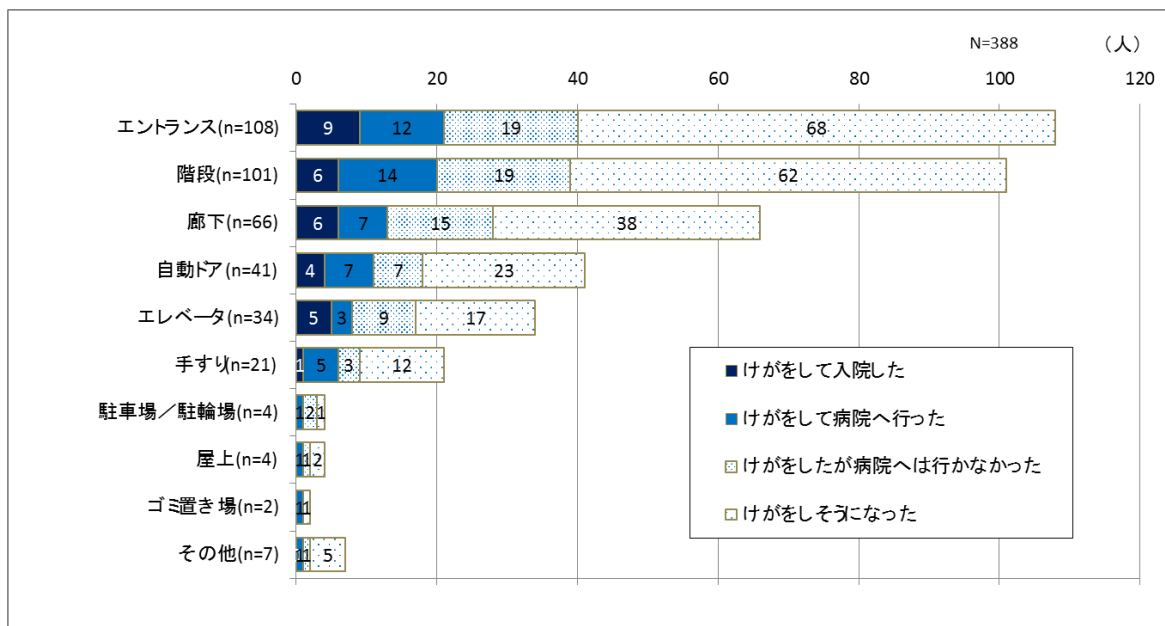


図 2_8_1. 集合住宅の共用部での危害及びヒヤリ・ハット経験の製品等別の危害程度

表 2_8_1 は集合住宅の共用部での危害及びヒヤリ・ハット経験についてその原因となった製品等で多かったもの上位 5 位までについて、事例ごとに経験者数をまとめた結果である。

表 2_8_1. 集合住宅の共用部での危害及びヒヤリ・ハット経験（製品等×事例）

		事例					
		1 位（人）		2 位（人）		3 位（人）	
製品等	エントランス	転倒	83	—	—	—	—
	階段	転倒	93	—	—	—	—
	廊下	転倒	57	—	—	—	—
	自動ドア	挟まれた	17	ぶつけた	12	転倒	3
	エレベーター	挟まれた	16	転倒	10	ぶつけた	3

※詳細不明及び 1 件しかない事例については省略した。

表 2_8_2 は集合住宅の共用部での危害及びヒヤリ・ハット経験の原因となった製品等について、性別及び年齢域ごとに経験者数をまとめた結果である。

表 2_8_2. 集合住宅の共用部での危害及びヒヤリ・ハット経験
(製品等×性別・年齢域)

		エントランス	階段	廊下	自動ドア	エレベーター
【全 体】		108	101	66	41	34
男 性	総数	44	36	34	18	14
	70～74 歳	23	15	7	9	2
	75～79 歳	9	9	6	4	2
	80～84 歳	7	7	11	3	4
	85～89 歳	4	2	9	0	3
	90～94 歳	1	2	0	2	1
	95 歳以上	0	1	1	0	2
女 性	総数	64	65	32	23	20
	70～74 歳	15	19	6	11	3
	75～79 歳	19	15	9	2	2
	80～84 歳	13	17	9	5	6
	85～89 歳	17	9	7	4	7
	90～94 歳	0	5	1	0	2
	95 歳以上	0	0	0	1	0

※製品等は、危害及びヒヤリ・ハット経験の原因となったもののうち多かった上位 5 位までのものである。

表 2_8_3 は、集合住宅の共用部での危害及びヒヤリ・ハット経験の事例について、性別及び年齢域ごとにまとめた結果である。

表 2_8_3. 集合住宅の共用部での危害及びヒヤリ・ハット経験（性別・年齢域×事例）

	n 数	男性						女性							
		70 ～ 74 歳	75 ～ 79 歳	80 ～ 84 歳	85 ～ 89 歳	90 ～ 94 歳	95 歳 以上	計	70 ～ 74 歳	75 ～ 79 歳	80 ～ 84 歳	85 ～ 89 歳	90 ～ 94 歳	95 歳 以上	計
転倒	271	39	17	25	15	3	3	102	37	45	44	37	6	0	169
挟まれた	35	8	2	2	1	1	1	15	9	4	2	2	2	1	20
ぶつけた	17	2	1	2	0	0	0	5	4	0	5	3	0	0	12
ぶつかられた	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
異物を踏んだ	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

※事例については、集合住宅の共用部において多かった上位 5 位までのものである。

表 2_8_4 に詳細事例を示す。

表 2_8_4. 集合住宅の共用部での危害及びヒヤリ・ハット経験の詳細事例

No	製品名等	事例 キーワード	性別・年齢域別	事例詳細
1	階段	転倒 (踏み外した)	女性 70～74歳	ごみ捨てをするため、ごみを持って階段を降りていたら踏み外して転倒した。怪我は擦り傷程度で済んだ。
2	階段	転倒 (踏み外した)	女性 70～74歳	階段を踏みはずしそうになり、手すりを握ったとき手首をひねりそうになった。
3	階段	転倒 (踏み外した)	男性 75～79歳	何かの理由でエレベーターが止まり、非常階段で荷物を持って上がろうとしたところ、階段を踏み外してよろけた。
4	階段	転倒	女性 75～79歳	マンション内の階段に手すりがなく、買い物して持って上がった時などに、足が上がらず、落ちそうになる。
5	階段	転倒 (滑った)	女性 75～79歳	団地の階段で段差に足をしっかり乗せることができず、降りる際に転倒。雨も降っており滑ったとのことだった。手をついたところと肩に打撲があった。
6	階段	転倒 (つまずいた)	男性 80～84歳	マンションの低層階に住んでいるのでエレベーターより階段を使うことが多いが、階段の段差が通常よりやや高いので上るときによくつまずいている。今のところは手すりにつかまって落ちたりはしていない。
7	階段	転倒 (バランスを崩した)	女性 80～84歳	手すりのない階段で荷物を持って上りかけたところバランスを崩して転倒した。
8	階段	転倒 (踏み外した)	女性 85～89歳	本人は足を上げているつもりだが、実際上がっておらず、階段を踏み外したりつまずいたりする。
9	エントランス	転倒 (滑った)	男性 70～74歳	スロープに滑りやすそうな塗装がしてあり、雨の日、掃除の後などに滑りそうになる。
10	エントランス	挟まれた	女性 70～74歳	回転ドアに挟まりそうになった。
11	エントランス	転倒 (つまずいた)	女性 70～74歳	マンション全体を改築していて、エントランスも工事中だったため段差があり、そこにつまずいて転んだ。
12	エントランス	転倒 (滑った)	女性 70～74歳	早朝に外出した際に凍った雪に滑って転倒し腰を強打。全治3週間だった。
13	エントランス	転倒 (滑った)	女性 75～79歳	マンションのエントランスの床が雨で濡れていて、足元が滑ってしまい、腰をひねって痛めてしまった。
14	エントランス	転倒 (滑った)	女性 75～79歳	マンションのエントランスが雨で濡れており、足を滑らせそうになった。
15	エントランス	転倒 (つまずいた)	男性 80～84歳	デイサービスから帰ってきてエントランスの階段を上ろうとしてつまずいた。
16	廊下	転倒 (滑った)	男性 70～74歳	屋外にある廊下で、ただでさえ湾曲して歩きにくいところに雨で滑りやすくなっていて転んだ。幸いけがはなかった。
17	廊下	ぶつかった	男性 70～74歳	目が不自由な父が一人で共用廊下を歩いていたが、昼間でも暗く電気もついてないため、手すりに掴まりながらエレベーターまで行く途中、通路に停めてあった自転車にぶつかってしまった。

No	製品名等	事例 キーワード	性別・年齢域別	事例詳細
18	廊下	転倒（滑った）	男性 80～84歳	廊下に凍った雪があり、それを踏んで滑ってしまった。
19	廊下	転倒	男性 85～89歳	障害物はなかったが、手すりがなく転倒。
20	廊下	転倒（滑った）	女性 85～89歳	夕方近くになってから廊下全体にモップをかけるようで、ビショビショになったままの廊下で祖母が歩こうとしたところ転倒して腰を強く打ってしまった。廊下は滑り防止の特殊品とのことだが、風が収まり湿度が下がりにくい夕方からでは翌朝まで乾くことがないので滑りやすいと知った。
21	エレベーター	挟まれた	女性 70～74歳	祖母がマンションのエレベーターを利用した際、タイミングが合わず手首と袖がエレベーターのドアに挟まれてしまった。数秒で扉は開いたが、そのまま動き出していたかもしれないと思うと危なかった。
22	エレベーター	ぶつかった	女性 80～84歳	エレベーターに複数人乗っていたために乗り降りが遅れた。慌てて乗り込んだときに閉まりかけたドアに勢よくぶつかった。しばらく痛みがとれなかった。
23	エレベーター	転倒（つまずいた）	女性 85～89歳	エレベーターに乗ろうとしたが、ドアの段差でつまずき転倒して手を骨折した。
24	エレベーター	転倒（つまずいた）	男性 95歳以上	エレベーターに乗る際、閉まりかけたドアに引っかかって転倒しそうになったが、私が抱きかかえたので大事には至らなかった。
25	自動ドア	転倒（つまずいた）	女性 70～74歳	3年ほど前に母が自動ドアのマットのめくれに足を引っかけてしまい転倒してしまった。腕や足を強打し痛みが強く、整形外科を受診し検査を受けたが、幸い打撲と軽い捻挫ですんだ。
26	自動ドア	転倒（ぶつかった）	男性 70～74歳	自動ドアが作動するのに一定の時間がかかるが、自動ドアのことを忘れていたらしく突っ込んでしまった。
27	自動ドア	転倒（引っかかった）	女性 80～84歳	自動ドアの溝に杖が引っ掛かり転倒。膝を打って痛めた。湿布を貼ってテーピングで固定。
28	手すり	転倒（滑った）	女性 75～79歳	こけそうになり、手すりにつかまろうとしたが滑った。
29	手すり	転倒（調整不良）	女性 75～79歳	自治会集会所の手すりがぐらついていて、しがみついたら取れてしまった。その反動で転んだが、けがには至らなかった。
30	手すり	転倒（滑った）	女性 80～84歳	母が階段の手すりをつかむ力が弱くて滑りそうになった。

(9) その他の家の中での製品等の危害及びヒヤリ・ハット経験

これまでの項以外の家の中での製品等の危害及びヒヤリ・ハット経験については、3,000人中181人(6.0%)であった。ほとんどが製品や場所等の原因がわからないものだったが、事例としては、転倒(99人)が最も多かった。また、回答者が訪問の際に、高齢者の身体にあざができていた(23人)、けがをしていた(8人)というものもあった。

表 2_9_1 に詳細事例を示す。

表 2_9_1. その他の家の中や製品での危害及びヒヤリ・ハット経験の詳細事例

No.	製品名等	事例	性別・年齢域別	事例詳細
1	コンセント	接触不良	女性 75～79歳	コンセントを差し込む力が弱いようで、扇風機などが接触不良により熱くなっていることがあった。
2	電話	転倒	女性 80～84歳	早朝に電話が鳴り慌てて出ようとしたらこけた。
3	居間の雨戸	引き込まれた	女性 80～84歳	朝、雨戸を開けようとしたところ、手のひら全体も引き込まれてしまい、手首裂傷。自分で受診し処置をしてもらった。
4	家の柱	ぶつけた	女性 80～84歳	私が少し目を離してしまったときに、家の柱に頭をぶつけていた。見た目の怪我はないようだったが、しばらく様子を見た。
5	屋根裏	転倒	男性 85～89歳	薄暗い所で足元が見えず転倒。
6	仏壇のロウソク	やけど	女性 85～89歳	倒れてしまって起こそうとしたのか少し火傷した。
7	天井裏	物が落ちてきた	男性 95歳以上	天井裏の物を取ろうとして落ちてきた。私が受け止めて、大事には至らなかった。

(10) 高齢者のみの世帯における身の回りの安全について、普段気をつけていることや工夫について

高齢者のみの世帯における身の回りの安全について、見守っている家族等が普段気をつけていることや工夫について自由記述で質問し、その結果、1,869人の回答を得た。

転倒防止に関すること(744人)、温度管理に関すること(222人)、火災防止に関すること(158人)等について多くの工夫例が見られた。

内容については様々であり、例えば、転倒防止の対策一つを取り上げても、部屋に敷物を「敷かない」という工夫もあれば「部屋全体に敷きつめる」というものもあり、各家、各人に合った対策を施すことが必要だということがうかがわれた。このようなことから、収集した工夫例が消費者の家庭内での事故防止対策の一助となるよう、表2_10_1に回答者が実際に施している工夫例や気をつけていることを列記する。

表 2_10_1. 詳細事例「普段気を付けていることや、工夫について」

転倒防止（フローリング、カーペット、電気コード等）	
1	カーペットはどうしても必要だと言うので滑り止めを敷いて、床には物を置かないようにした。
2	床のカーペットは養生テープで固定し、回転椅子は紐で固定した。
3	滑って転ばないように座布団などを置かないようにしている。
4	マット類の段差をなるべく少なくなるようにきっちり敷く。めくれることがないように設置する。
5	足が上がらないようになったので、マットの引っかかり等、少しの段差もなくすようにしている。
6	カーペットを均一に敷き詰めるようにして、つまずいて転ばないようにした。
7	フローリングの場所を少なくして大き目のカーペットを敷いた。カーペットには滑らない工夫をした。
8	玄関マットや敷物の下には滑り防止シートを敷き、ドア枠の段差にはつまずき防止をはめる。
9	マットの段差を直したり物が取りやすいようにする。訪問したときに気を配ったり声かけをする。
10	薄いカーペットに交換した。
11	生活しているうちにカーペットがずれるので掃除ついでに直す。
12	カーペット等は裏に滑り止めをつけている。
13	つまずきを避けるため、カーペットや電気コードの位置に気をつけた。
14	カーペットにつまずかないように、端をピンで留めてめくれにくくした。
15	敷物に隙間ができないように工夫している。
16	廊下に敷いてあるマットの端に足を引っかけたりするので、端をテープで固定した。
17	フローリングが危ないので、廊下やトイレ各部屋にブロックカーペットを敷いた。
18	玄関マットは両面テープ固定した。
19	父が部屋と部屋の境目で転んでしまうので、カーペットを敷いて平らにならすようにした。
20	床に部分的な敷物は敷かない。
21	キッチンマットは敷かず、冬は厚手の靴下を履いてもらう。
22	フローリングは滑るので、全てじゅうたんを敷いて素足で歩けるようにした。
23	マットや敷物の下に、滑り止めのマットを用いて転倒の防止をしている。
24	極力つまずきやすいものを足元に置かない。

25	床に敷物を敷くことをやめた。
26	マットに滑り防止のシートを敷いた。
27	家の中には敷物は敷かない。スリッパは履かない。床や畳に物を置かない。
28	足を引っ掛けないように、通り道（廊下など）にはなるべく電気コードなどを這わせないようにしている。
29	敷物が動かないようにテープで固定した。
30	廊下にクッションフロアーを敷いた。
31	マットは柔らかくて滑りにくいものにした。
32	電源コードを歩く範囲に這わせない。マットの下に滑り止めを使用する。
33	父は、敷物の端でつまずくことがあるものの放置していたので、大きくつまずいてけがをしそうになったことをきっかけに、ヘッドが平たい押しピンでしっかりと敷物の周囲を留めるようにした。
34	フローリングの廊下で転倒し、はまり戸のガラスに突っ込んだので、ガラスをアクリル板に変更した。
35	つまずきやすくなったので、足元は常にきれいにするようにしている。
36	つまずいて転ぶのが増えたので、マットや低い椅子などを片付けた。
37	洗面所のマットが滑りやすいので、下に滑り止めを敷くことを提案した。
38	足場の悪くなりそうな敷物はすべて撤去した。トイレの行き帰りなど家内を歩く際、目に入った時は見守る。
39	足元に注意がいけないので床に物を置かないようにしている。
40	キッチンマット、お風呂マットの下に滑り止めマットを敷いている。
41	マットやラグがずれないように滑り止めシールをつけた。
42	延長コードを浮かせないようにする。
43	転倒しないように足元に物を置かないことと、転倒して角にぶつかってもダメージが少ないようクッションを設置した。
44	母は、よくつまずきそうになるので床の敷物のへりを固定した。
45	部屋、廊下には、なるべくつまずくような物は置かず、できる限り片付けなどは一緒にする。
46	とにかく床に物を置かないことと、階段に手すりをつけた。
47	足元に物を置かない。動線を決めてあげる。
48	普段の生活動線を知り、転倒の危険がありそうな障害物がないか常にチェックする。室内では、つたい歩きができるように手すりなどを導入した。
49	電気ストーブなどのコードに引っかかって転ばないように定位置に置いて、コードは隅に張り付けている。
50	電気のコード等も隠れるようにした。
51	すべてのものにつまずくと考えている。
転倒防止（段差）	
1	段差などはしっかり声をかけ気をつけてもらう。
2	家の中に段差があるので、つまずかないように出来るだけさりげなくチェックしている。

3	とにかく家の中の段差を無くすこと。滑りそうなどころにはマットを敷いている。
4	祖母は段差で転びそうになるので、手すりをつけた。
5	庭が敷石などで小さな段差になっているので、平らにした。
6	段差には注意するように伝えている。周りに足を取られそうな家具等を置かないようにしている。
7	少しの段差でつまずくので、出来るだけ平面にした。
8	ふとんの段差には気をつけている。
9	従兄弟夫婦に段差のあるものは取り外すか、段差の少ない薄い敷物に取り替えるように伝えた。
10	段差や障害物につまづくことが多いので、普段から片づけをして余計なものを足元に置かないようにしている。
11	部屋から庭に出る段差を解消。
12	小さな段差にもつまずくようになったので、できるだけ段差をなくした。家具の配置で家具につかまって歩けるように工夫した。
13	脚力の衰えがあるので、高低差のある段差は高低差を少なくするようにしている。
14	転ばないように段差をなくすようにすることと目を絶えず離さないように注意を払う。
15	フローリングと和室との段差は無くした。高いものを取る時は連絡するように言っている。
16	ちょっとした段差でつまずいたりバランスを崩して転ぶので、外出時は必ず杖を所持し、履物も足にフィットするものに替えた。
17	玄関の段差に黄色いテープを貼った。
18	段差には目立つ色のテープを貼る。布団はつまずくのでベッドに替えた。
19	家の中の段差が高いところには、一段仮設のステップをつけた。
20	なるべく段差の無いようにし、無理なところは目印を作り、気をつけてもらうようにした。
21	玄関やキッチンに段差があるので、台をおいて転ばないようにしている。
22	なるべく床の段差がないようにしたり手すりをつけたりして生活動線の工夫をしている。あまり目立って行くと嫌がったり傷つけてしまうと思うので、さりげなく行っている。
23	玄関に段差があるので、転ばないように声がけしている。
24	適度な運動で能力の低下を抑える。
25	介護保険でスロープなどを設置した。
26	階段に物をよく置いていたのだが、歩くスペースが減り危ないので片づけた。
27	階段に置いてあるものを、どかしたほうが良いと思っているので、少しずつ声をかけている。
28	階段を降りるときに滑らないスリッパで引っ掛かったと思ったので、履かないようにアドバイスした。でも、習慣はなかなか修正が難しい。本人には足を上げてゆっくり降りるようにしている。
29	階段の上り下り。住まいが4階でエレベーターがないため自分が必ず後ろにつき、ゆっくり登るようにしている。足元を見ながら前に進む。
30	階段を上るときはいつも一緒について行って支えている。
31	階段を掃除した後はよく滑るので、滑り止めをつけた。
32	階段ではスリッパを脱いで歩くようにしてもらった。
33	階段の上り下りが不便になってきたので、できるだけ2階や3階に上らないようにしてもらっている。

転倒防止（階段）	
1	通路部分はなるべく物を置かないようにして、階段や玄関のたたき部分には蛍光テープを張って目立つようにしている。
2	何かをやりながらの階段の上り下りをしないように気を付ける。
3	なるべく階段を上がらなくて済むように寝室を1階に移した。
4	自分の部屋が2階にあるので、階段の上り下りは危険と考え、階段に昇降機を取り付けた。
5	階段や部屋に手摺りをつけた。毎朝7時に安否確認の電話をしている。
6	階段の上り下りに気をつける様に手すりを片側だけでなく、両側につけた。
7	階段をなるべく使わないで済むように、ベッドを2階から降ろした。家の中を掃除しながら、危険なものがないか探す。
8	階段や廊下の段が見えやすいよう、段のあるところに蛍光テープを貼った
9	階段での上り下りが危険だったため、家をリフォームする際にエレベーターをつけた。
10	玄関に続く外の階段付近に明るいライトを付けて足元を照らしている。家具の角に足をぶつけることもたまにあるので、よく通る道の家具の角にはクッション材が付けてある。
11	掃除機を持って階段の昇り降りをしないで済むように1階用、2階用と掃除機を2台にした
12	二階には行かないように階段にロープを張った。つまずきそうなものはどかした。毎日、家内か家内の姉が訪れては直接の見守り、入浴時の見張り、食事の際の立ち合いをしている。
13	階段で最後の一段を間違えて落ちてしまうことがよくあるので、母が必要としそうなものはすべて1階に持って来て、階段や2階の掃除はさせないようにしている。夜中も豆電球をいつもつけて寝るようにした。
14	階段の上り下りが不安になってきたので、夜光テープを貼り段の位置をわかりやすくした。
室温管理（熱中症対策及び防寒、エアコンの使用について）	
1	いつもエアコンをつけている。
2	エアコンのタイマー設定を使うようになった。
3	母は夏場どんなに暑くても電気代が高いのと身体に悪いからと言ってエアコンをつけないでいるので、熱中症などになる前にエアコンをつけて欲しいと思い、私だけでなく、兄弟や伯母などに相談して、色々な人から色々な言い方でエアコンをつけてもらうようお願いした。
4	エアコンの使い方がよくわからないので夏は冷房、冬は暖房で温度設定をした上で、本人にはオンとオフのみを教えた。
5	リモコン操作が覚えられず、エアコンを使用したまらない方には、リモコンの最低限のスイッチにシールと説明を貼り、ストーブの使用をしないよう勧めている。
6	エアコンもテレビもリモコンは、すぐに届くようにしている。
7	夏の暑いときには我慢せずエアコンを使用するよう伝えている。
8	エアコンでの室内温度調整を常時行っている。
9	夏場を中心にして熱中症のリスクがあるのでエアコンをつけているのに、勝手に電源を切ってしまうので、エアコンをオートに設定して、リモコンを預かった。
10	エアコンの温度設定を極端に変更してしまうので、入/切のボタン以外をマスキングして、他のボタンを使用できないようにしている。

11	エアコンの温度設定に注意し、リモコンをそばに置かないようにしている。
12	エアコンを嫌うが、お年寄りの熱中症のニュースを話したら、つけるようになった。
13	エアコンのリモコンは誤操作するので見えないところに置いている。
14	エアコンの使用頻度を増やした。床暖房を導入
15	暑い時は我慢せずエアコンを入れるように、冬場は入浴の前にお風呂場や脱衣場を暖めておくように伝えた。
16	特定の時期を除いてエアコンは常につけっ放しにしている。
17	夏場は必ずエアコンをつけるように実家の親によく言っている。
18	エアコンをつけるのを嫌がるので、水だけは飲めるようにペットボトルを用意している。エアコンをつけると電気代がかかると節約意識が高い。父親は夏でも寒がる事があり、冷気を受けるより扇風機の方が皮膚感覚に合っている様子だが、母親は暑がりなので感覚が合わない。
19	父は大丈夫だが、母はエアコンが苦手で、夏の暑い時期でもエアコンをつけないので、新しいエアコンを買って微風でつけるようにした。
20	夏はエアコンを、冬はエアコンと加湿器をつけ、水分は適時飲むようにしてもらっている。
21	夏はエアコンをつけっぱなし、冬もエアコンをつけっぱなし。
22	エアコンを訪問時に必ずチェック
23	エアコンは一年中つけるようにしている。とくに夏は飲み物を定期的に取りようアドバイスしている。
24	エアコンをタイマーにしてつけている。
25	夏はエアコンをつけないので室温が 34 度になったことがあり、エアコンをつけたままにしてリモコンも隠した。
26	もったいない、冷風が嫌いエアコンを使用しないので、暑くなる前にエアコンの効果的かつ節電効果の高い使い方を説いてまわる。
27	夏は無理せずエアコンをつけるように言っている。温度計を設置した。
28	夏はフロアのドアをすべて開けて、一つのエアコンをつけておく
29	エアコンは電気代を気にしないで使うように言っている。
30	昨冬までは灯油のストーブを使用していたが、今冬の暖房はエアコンとコタツのみにした。
31	一部屋のみエアコンはつけっぱなしにしている。夏は脱水症状、冬は加湿に気を使っている。
32	温度変化に鈍感になっていて夏の暑いときでもエアコンをつけずにいたりする。大きい温度計をリビングの目立つところに設置し、25 度を超えたら必ずエアコンを使用するようルールとしている。
33	湿度と室温をチェックし、エアコンなど環境調整に役立てる用意をした。
34	寒さ、暑さを感じにくくなっているため、まめに電話をしてエアコンをつけるよう指示している。
35	エアコンやストーブのつけっぱなしがあるので、近くに住んでいる家族が夜に見回っている。
36	エアコンやカーペットなどつけたままにしてしまうことが多々あるのでタイマー機能を設定している。
37	夏の暑いときでもエアコンをつけないので、テレビの前に温度計・湿度計を常備し、気温を常に意識させるようにした。
38	母親は、暑い夏も 40 度近い部屋で暑くないと、エアコンもつけずに居るため、水分を摂取するように言っているのと、なるべく自宅にいないで乗り物に乗ったり、公共施設に行くことを勧めている。

39	エアコンは気温で、自動的に作動するように設定し、暑くなくても切らないように言っている。水分をしっかり取るように伝えて水分補給のための経口補水液を購入して手渡す。
40	暑いとか寒いとかの感覚が鈍くなっているので、こまめに衣類のチェックをしたり、エアコンやストーブの使用を促したりしている。
41	夏季にエアコンをつけるにはもったいない、身体に毒と信じており、熱中症が心配で省エネタイプのエアコンを購入してあげて、つけるようにした。
42	祖父は、夏の暑い時でも、窓を開け放ち、エアコンはつけないので、熱中症になりそうになった。デイサービスでエアコンがついている部屋に慣れてきたので、それを参考につけてもらうようにした。また、よく見る電話の上に、区から配布された温度計を貼って、電話をしては見てもらうようにした。
43	夏の暑さを感じにくくなっているので、日中は大きな字のデジタル時計で温度計付きのものを据えて30度以上になる前にエアコンをつけるように、夜は閉め切って、エアコンをかけて寝るようにさせている。
44	父親は就寝時にエアコンをつけたがらないので、扇風機をプレゼントした。
45	エアコンで温度調節に気をつけている。
46	エアコンをつけて熱中症に気をつけている。
47	夏のエアコン使用は積極的にと言っている。
48	母は夏の暑いときでも極力エアコンをつけずに部屋にこもりっきりがちなので、こまめに水分補給しながら熱中症を予防するために、常に身近に冷水の入ったポットを常備した。
49	エアコンは故障する可能性もあるので真夏には毎日電話をするようにしている。可能であれば日に三度、朝、昼、夜。
50	夏場はエアコンをつけていないことが多いので、一緒にいるときはエアコンを付けて意識してつけるようにしている。
51	エアコンが苦手だが、体に直接風が当たらないように設定をしてつけている。
52	エアコンをつけていても熱中症になった事があるので水分補給に注意している。
53	夏にエアコンをつけずに何度か熱中症になったことがある。エアコンをつけるよう何度促しても聞き入れてもらえず、張り紙や電話で何度か伝えている。
54	暑い夏も寒い冬もエアコンをつけずに我慢していることが多いので、適度な温度でつけるようにしている。年間を通して水分を摂ることをお願いしている。
55	夏で暑くても大丈夫だと言い、私たちが訪れないとエアコンをつけなかったのが、できるだけ夏の暑い日は家族の誰かが祖母の家を訪れるようにした。
56	気温の変化、温度差を感じなくなっているため、エアコンは1日中つけている。電気代はすごいが、身体のことを考えると有効だと思う。
水分補給（熱中症対策）	
1	喉の乾きを感じないらしく水分の摂取量が少ない。暖房をしているときは積極的に摂取するように勧めている。夏はとにかく水分を取らせるように、すぐに水の飲めるウォーターサーバーを設置。
2	夏の暑い時に水分をあまりとらないので常にそばにペットボトルを置いていた。
3	室内の温度と湿度がわかって、危険な状態になったらわかるような温湿度計を使用している。
4	熱中症にならない様に水分を取る様に促している。

5	温度調節はしっかりする。経口補水液で脱水症状防止にと気をつけている。
6	水分を取るように促している。
7	夏でもあまり水分を取ろうとしないので気をつけている。
8	母親がやたらに暖房の温度を上げ、つけっぱなしのまま寝てしまうので、脱水症状になるのを防ぐため、必ずその怖さを説明してから消すようにしている。
9	熱中症にならないよう、気づいたら一口でも水分を飲ませる。
10	出かけるときや寝る前はトイレが近くなるので、水分をとるのを控えていたが、脱水症状にならないように水分をとるように注意した。
11	夏、水分補給が十分出来ていなかったので補給専用の水を用意している。
12	行く度に、季節に関係なく水分摂取をするように言っている。行かない間にあつたことを聞き、何でも話せるようにしている。
13	脱水症状を何度か起こしたので常に水分をとれるようにした。
14	夏に水分補給をあまりしないことがあったので、一緒にいるときは飲むようにしている。
15	熱中症になったことがあるので、水分をこまめにとるように家の中でもマイボトルを使っている。
16	水分補給の声掛けをいつもしている。食事でも特に夏場は気をつけている。
17	自分で水分を取ろうとしないので、いつもコップにお茶を入れてあげる。
18	夏も冬も水分補給を積極的にすること。これくらいは大丈夫と思わず、確認をする。
19	9月の比較的涼しい日だったが、熱中症となり翌日入院。水分補給の大切さを説明して実行するように言った。

ストーブの使用について

1	電気ストーブのまわりには燃えやすいものを置かないように注意している。
2	ストーブの消し忘れ防止のため、自動的に切れる製品に交換した。
3	石油ストーブをやめてコタツにした。
4	ストーブをファンヒーターに替えた。
5	灯油ストーブの点火は家族が行う。
6	火事が怖いのでストーブをつけている時は必ず誰かそばにいる。
7	灯油ストーブを撤去した。
8	母親は冬になると石油ストーブを使い、消さずに昼寝をしてしまう事があり火災が心配なので、使用延長機能がついている石油ファンヒーターに買い換えた。

風呂場・トイレでの対策（温度差）

1	冬場はお風呂場や脱衣場を暖めておくように伝えた。
2	冬場に、風呂場の前の脱衣所に、温度差をなくす為にヒーターを置いた。
3	冬は風呂の蓋を開け、事前に浴室を温めている。
4	祖父は高齢なので、お風呂に入る時には、暖かい所で脱衣してから入るように言っている。
5	冬お風呂場が寒いので、浴室暖房をつけるようにしている。
6	風呂は沸かすタイプを止め、お湯を張るタイプにして、お湯の温度を低く設定した。
7	風呂場では冬は必ず暖房をつけて入るよう声をかけている。

8	風呂のお湯は心臓の下辺りまで。脱衣場は温める。
9	古い家で洗面所やお風呂場が冷えるので、お風呂に入る前に室内の温度を上げるように注意している。
10	トイレが冷えるので、脳卒中予防のため夜間はヒーターをつけている。
11	居室と廊下、浴室、洗面所、トイレに温度差がないように暖房を入れている。
12	トイレは、床暖房で24時間保温している。
13	冬場のトイレ誘導時に、部屋の温度変化に気を付ける。
風呂場・トイレでの対策（転倒・転落）	
1	トイレや風呂をリフォームして手すりをつけた。
2	お風呂で滑ったり転んだりしないように、絶えず床にシャワーを流している。
3	床の段差を解消するため、床と風呂場のリフォームを行った。
4	風呂場で転倒しないようにバリアフリー用の取っ手を付けた。
5	お風呂の床は祖父母が入る前に水分を拭き取っておく。
6	お風呂で滑ってしまうので滑らないマットを敷くようにした。
7	風呂場の段差をなくす工事をした。
8	風呂掃除では風呂用の靴を履く。
9	風呂場の床を張り替えて滑りにくいものにした。
10	風呂場はよく乾燥させる。
風呂場・トイレでの対策（その他の見守り）	
1	夜トイレに起きる時もベッドの傍に4本足の杖をおいて使うようにしている。
2	夜中によくトイレに起きるので、電気をつけておく。
3	夜中にトイレなどで起きるときや歩行するときも、明るいほうがいいので、トイレに行くまでの廊下の電気をLEDに変えて、一日中つけっぱなしにしておくようにした。
4	風呂場の床を張り替えて滑りにくいものにした。
5	お風呂は私がいる昼間に入っている。
6	なるべく一人のときにお風呂に入らないようにしている。
7	お風呂はデイサービスを利用して家では入らないようにしている。
8	お風呂で滑ったり転倒すると危ないので熟練したヘルパーさんにお風呂に入れてもらっている。
9	マットで滑らないよう下に滑り止めを敷いた。お風呂はデイサービスにお願いした。
10	お風呂に入るときは誰かに声をかけて入るようにしている。
11	火の消し忘れやお風呂の空焚きについて、合言葉のように常に確認する。
12	お風呂を全自動にして汲みすぎや沸かしすぎにならないようにした。
13	夜のトイレに行くとき、布団だと起きにくいので、電動ベッドにしている。
14	電話の子機をトイレの中に置いてある。
ガス・火の元等	
1	ガスコンロや電気ストーブを付けっ放しにしないよう伝えている。
2	火を使うと、力が弱いせいかガスがしっかりと切られてない状態になっていて危ないので、ガスの

	元栓を止めている。
3	料理を焦がすようになってきたので、ガス台を IH 式に変えた。
4	ガスコンロから IH に替えた。
5	ガスストーブの換気をする。
6	基本的に一人のときは ガスコンロを使わないようにしてもらっている。
7	訪問時にガスコンロの火がつけばなしのことが多いので、火災予防のためガスの契約を解除した。
8	ガスコンロの使用時には袖など長すぎたり、燃えやすい生地は避けるようにする。
9	ガスを使うと危ないので、電子レンジで温めることだけにしてもらっている。
10	ガスコンロは最新の立ち消え装置の有るものに替えたが、それでも装置に頼らず、面倒でも都度タイマーをセットし、ピピピと言う音でガスを消す習慣にできるように練習中。
11	電気ポットにした。
12	自分が出かけるときに家の外のガスの元栓を閉める。
13	台所の壁に注意書きを貼った。
14	面倒くさいが、ガス栓を通常止めて必要時のみ栓を開いている。
15	やかんを何度も焦がして(溶かして)しまったので、電気ポットに替えた。
16	ガスコンロは使用禁止。火を使わず電子レンジ対応の食品に切り替えた。
17	できるだけ火を使わなくてもいいように、電気ケトル、小型炊飯器、魚焼き器などを購入した。
18	電気の調理器でタイマーの機能のあるものを使う。
19	叔母が匂いを感じなくなったので、ガス漏れ報知器をつけた。
20	ガスコンロは火災が怖いので、IH の調理器に変えるよう頼んだ。
21	空炊きすると、ガスの火が止まるガスレンジにした。
22	母親が他界して以来父親が自炊をしているので、ガス台の消し忘れを考えオール電化に変更した。
23	母は火の消し忘れで何度かお鍋、やかんを焦がしたことがあるのでガスレンジの使用は禁止した。お湯はポットから、調理は電子レンジのみとし、食事の支度は私と義姉で行っている。
24	給湯器の温度設定が50度になっていたときがあった。こちらでよくチェックしておくことが必要だと認識した。
25	仏壇の線香やろうそくの火が気になるので、横向きに線香を置く線香入れを買った。
その他の見守り	
1	カレンダーにメモをとるようにしている。
2	1人でできると言っても、無理をすると怪我をする恐れがあるため、どんな時も手伝いを受けて行動してもらうように伝えている。ドアに鈴をつけ、出ようとした時に気づけるようにしている。
3	ボランティアの規則で家の中に入ることはないのだが、本人からケガや心配なことなど細かく近況を聞くようにしている。具体的に何に気をつけたらいいか、簡単に説明しているつもりだが、本人も忘れることが多かったり、生活習慣を変えるのが難しかったりして苦心している。
4	無理なことはしないようにアドバイスしている。
5	母は脚が悪いので、急がせない事、出かけるときは時間の余裕をみて出かけるようにしている。
6	加湿は加湿器を使用せず濡れたタオルケットを掛ける。
7	福祉電話を導入し緊急時には連絡が来るようにしてある。

8	訪問時に危険な事はないか注意を払ってみているが、家族ではないので、出過ぎた事をしたり、言ったりしないように心掛けながら助言している。
9	毎朝かける電話を欠かさないようにして、定期的に訪問をし、火の始末や戸締りなど、祖母本人にも注意喚起を行うようにしている。
10	ヘルパーの定期的訪問
11	届かない場所の物は、自分で取ろうとしないように誰かに頼むように言っている。
12	高齢の方は少しでも体調が良いといつも以上に動きたくなるようで、むしろそういう時に目を離さないように気をつけている。
13	週2回デイケアサービスに行ってもらい、他の人とのコミュニケーションをとるようにしたり、一人でいることを少なくするようにした。
14	寝るときにも 必ず携帯電話を身近に置くように伝えてある。
15	行動をゆっくりして焦らず行動するようお願いをしています。
16	暑いとか寒いとかの感覚が鈍くなっているので、こまめに衣類のチェックをしている。
17	すぐにスイッチを消すので、消さない方がよいものにはすべて貼紙で消さないよう注意書きする。
18	もったいない感覚で、消費期限が切れた物を食べる傾向があり、こっそり捨てる様にしている。
19	母親からは毎日電話をしてもらっている。もしなければこちらから電話をするようにしている。近所の人も電話やメールで連絡が来るようになっている。
20	個人のバックアップには限界があるので、団地自治会で組織的な対応を心掛けるようにしなければという意識になっている。
21	冬季の布団の温めは、電気毛布や湯たんぽではなく就寝前に布団乾燥機を活用している。
22	一緒にいる時間が多いので あれもダメ これもダメと言いつぎないように気をつけている。

Ⅲ. まとめ

東京都では平成 21 年度から乳幼児やシニア世代を中心としたヒヤリ・ハット調査を行い、事故防止ガイド等を通じて消費者への注意喚起を行っている。今回は、高齢者のみで生活している世帯が近年増えていることを踏まえ、70 歳以上の一人暮らし及び二人暮らしの高齢者のみで日常生活を送っている都民について危害及びヒヤリ・ハット経験に関するアンケート調査を行った。回答者は、インターネットアンケートという性質上、高齢者本人の回答を詳細に得る事が難しいことと、本人は危険と気付かずやりすぎしている事例が多いと予想されること、また、今後も高齢者の一人及び二人世帯の増加に伴い、見守る立場の人が増えていくと思われることから、その一助となるよう高齢者本人ではなくサポートする立場の人を対象とした。

高齢者の事故は重症化しやすく、寝たきりとなった場合、身体の機能を低下させることから、見守っている方々は事故の未然防止を心掛け、日常生活を送る住宅や施設内における危険を回避するために注意・工夫を施していただきたい。

また、製品を提供する事業者等は、高齢になることに伴う身体機能の低下や、日常生活における危害及びヒヤリ・ハット事例を注視し、高齢者の安全及び事故防止のために工夫を施した製品開発を行っていただきたい。

【結果の活用】

- (1) 危害及びヒヤリ・ハットの事例、注意のポイントをまとめ、ヒヤリ・ハットレポートを作成、配布し、消費者への情報提供を行うとともに、消費者教育のための資料として活用し、事故の未然防止を図る。
- (2) 収集した危害やヒヤリ・ハット経験等を事故の拡大防止、未然防止のための調査の基礎データとする。
- (3) 国、自治体及び事業者団体等へ調査結果を情報提供する。

IV. アンケート調査票

Q1

あなたとあなたが見守りを行っている高齢者の方の関係を教えてください(義理の関係も含みます。)(いくつでも)

- 親
- 兄弟姉妹
- 祖父母
- 上記(親、兄弟姉妹、祖父母)以外の親族
- 御近所の方
- ヘルパー、ボランティア等、仕事(報酬の有無は問わない)としての見守り先の方
- その他

次へ

○ここからは、「高齢者のみの世帯における身の回りに関する危害及びヒヤリ・ハットの経験」を伺います。

あなたが見守っている高齢者の家庭内でのヒヤリ・ハット経験について教えてください。

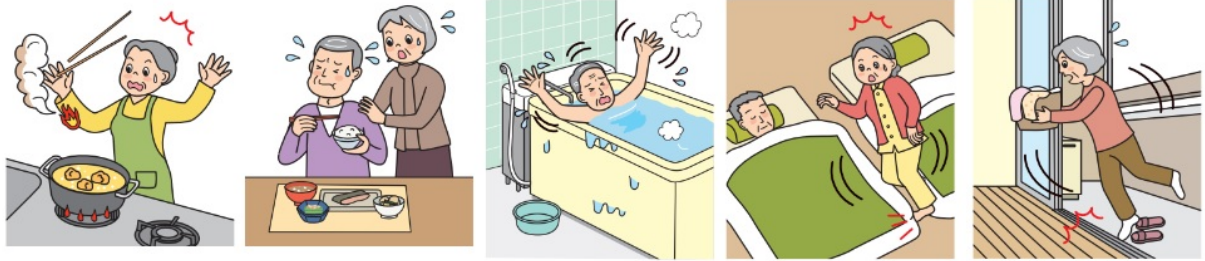
Q2

あなたが見守りをしている高齢者が、過去5年以内に家庭内の次の場所ではげ※をしたり、しそようになった経験はありますか？

(ただし、経験した当時の高齢者の年齢は、70歳以上。世帯の人数は1人もしくは2人としません。)

事例については、高齢者が経験した場に居合わせていなくとも、本人から聞いた内容をお答えいただいても構いません。(それぞれひとつずつ)

※ここでの「はげ」とは：はげ(やけどを含む)、誤飲、窒息、溺水などによる体調不良や火事になりそようになったことも含まれます。



		※はげ：やけど、誤飲、窒息、溺水などによる体調不良、火事になりそになったことを含む	
		はげ※をしたり、しそようになった経験がある	はげ※をしたり、しそようになった経験はない
1	【リビング・居間】 (例)床、畳、ドア、敷物、こたつ、ソファ、クッション、テーブル、照明、エアコン、加湿器、マッサージチェア、電気コードに足を引っかける…ほか	●	●
2	【台所・ダイニング】 (例)ガスレンジ、IH調理器、料理全般、飲み物、薬、冷蔵庫、電子レンジ、ポット、炊飯器、シンク回り、給湯器、調理用具、食器、洗剤、キッチンマット、ご飯にむせる、ごみ…ほか	●	●
3	【お風呂・脱衣所・洗面所・トイレ】 (例)浴槽、お風呂の床、バススリッパ、洗面台、洗濯機、歯磨き、口腔洗浄剤、カミソリ、化粧品、洗剤、着替え、照明、バスマット、温水洗浄便座…ほか	●	●
4	【寝室・ベッド・寝具等】 (例)ベッド、布団、着替え、あんか、湯たんぽ、冷暖房、パジャマ…ほか	●	●
5	【自宅の玄関・階段・廊下】 (例)段差、スリッパ、靴、つかかけ、衣服、傘、杖、照明、床、手すり、踏み台、電球の取り換え…ほか	●	●
6	【自宅の庭・ベランダ】 (例)床、掃き出し窓の棧、段差、剪定、草刈り、たき火、洗濯物を干す…ほか	●	●
7	【高齢者の居住している集合住宅の共用部】 (例)集合住宅のエントランス部分、エレベータ、階段、自動ドア…ほか	●	●
8	その他、日常生活を送っている家の中 (発生場所が不明なものも含みます。)	●	●

次へ



あなたが見守りを行っている高齢者のリビング・居間での「けがをした、しそうになった」経験について教えてください。

複数の経験がある場合、最も印象的だった事例についてお答えください。

※ここでの「けが」とは：けが(やけどを含む)、誤飲、窒息、溺水などによる体調不良や火事になりそうになったことも含みます。

Q3_1 その経験は、どのような程度でしたか？

- けがをして入院した
- けがをして病院へ行った
- けがをしたが病院へは行かなかった
- けがをしそうになった

Q3_2 その経験の詳細を、記入例を参考に教えてください。

【記入例1】製品、場所等の名称：敷物

母が居間の畳の上にカーペットを敷いていた。厚さは1cmもないものだが、そのへりにつまずいて転倒した。その時とっさに手をついてしまったため、手首を骨折して通院した。

【記入例2】製品、場所等の名称：エアコン

夏、父が冷房をつけるつもりで暖房をつけてしまっていて、夕方仕事帰りに様子を見に行ったら部屋がものすごい暑さになっていた。幸い熱中症は免れたが、見に行くのがもう少し遅かったらと思うとゾットする。

Q3_2_1 製品等の名称

--- ▼ その他(自由記述)

Q3_2_2 事例の詳細

Q3_2_3 その経験をした高齢者の方の性別を教えてください。

--- ▼

Q3_2_4 その時の高齢者の方の年齢を教えてください。

--- ▼

Q3_3 その時の高齢者の方の世帯の人数を教えてください。

--- ▼

次へ



あなたが見守りを行っている高齢者の台所・ダイニングでの「けがをした、しそようになった」経験について教えてください。
複数の経験がある場合、最も印象的だった事例についてお答えください。

※ここでの「けが」とは：けが(やけどを含む)、誤飲、窒息、溺水などによる体調不良や火事になりそうになったことも含みます。

Q4_1 その経験は、どのような程度でしたか?

- けがをして入院した
- けがをして病院へ行った
- けがをしたが病院へは行かなかった
- けがをしそうになった

Q4_2 その経験の詳細を、記入例を参考に教えてください。

【記入例1】製品、場所等の名称：ご飯
祖父と一緒にご飯を食べていて、いろいろ話をしていたら、突然ご飯がのどに詰まりむせて苦しがるので、慌てて背中を叩いたりした。
まさか普通に炊いた白米が詰まると思わなかったので、本当に驚いた。

【記入例2】製品、場所等の名称：ガスコンロ
母は古いタイプのガスコンロを使っているので、着けっぱなしのガスが自然に消えない。
何度か鍋を焦がしてしまい、それを触ってやけどもした。
大やけどと火事が怖いのでIH調理器に替えた。

Q4_2.1 製品等の名称

--- ▼ その他(自由記述)

Q4_2.2 事例の詳細

Q4_2.3 その経験をした高齢者の方の性別を教えてください。

--- ▼

Q4_2.4 その時の高齢者の方の年齢を教えてください。

--- ▼

Q4_3 その時の高齢者の方の世帯の人数を教えてください。

--- ▼

次へ



あなたが見守りを行っている高齢者の風呂、脱衣所、洗面所、トイレでの「けがをした、しそようになった」経験について教えてください。
複数の経験がある場合、最も印象的だった事例についてお答えください。

※ここでの「けが」とは：けが(やけどを含む)、誤飲、窒息、溺水などによる体調不良や火事になりそうになったことも含みます。

Q5_1 その経験は、どのような程度でしたか？

- けがをして入院した
- けがをして病院へ行った
- けがをしたが病院へは行かなかった
- けがをしそうになった

Q5_2 その経験の詳細を、記入例を参考に教えてください。

【記入例1】製品、場所等の名称：お風呂

父が浴槽の中で滑って転んでしまい、自分で起き上がれなくなっていた。なかなか出てこないと思っのでぞぎに行き気が付いた。
顔まで潜っていなかったので身体を支えて起こすだけで済んだが、顔まで潜っていたら危なかった。

【記入例2】製品、場所等の名称：トイレ

母が暖房便座に座ったまま眠ってしまい、お尻から太腿にかけてやけどして赤くなってしまい病院へ行った。便座の温度表示を見たらいつの間にか高温になっていた。

Q5_2.1 製品等の名称

--- ▼ その他(自由記述)

Q5_2.2 事例の詳細

Q5_2.3 その経験をした高齢者の方の性別を教えてください。

--- ▼

Q5_2.4 その時の高齢者の方の年齢を教えてください。

--- ▼

Q5_3 その時の高齢者の方の世帯の人数を教えてください。

--- ▼

次へ



あなたが見守りを行っている高齢者の寝室・ベッド・寝具での「けがをした、しそうになった」経験について教えてください。

複数の経験がある場合、最も印象的だった事例についてお答えください。

※ここでの「けが」とは：けが(やけどを含む)、誤飲、窒息、溺水などによる体調不良や火事になりそうになったことも含みます。

Q6_1 その経験は、どのような程度でしたか？

- けがをして入院した
- けがをして病院へ行った
- けがをしたが病院へは行かなかった
- けがをしそうになった

Q6_2 その経験の詳細を、記入例を参考に教えてください。

【記入例1】製品、場所等の名称：寝室

母が夜中にトイレに行こうと思ってベッドから降りる際に寝間着の裾を踏んでしまい転倒して足を捻挫した。

朝、立ち寄ったら動けなくなっていて驚いて病院に連れて行った。

【記入例2】製品、場所等の名称：布団

両親は畳に布団を敷いて寝ているが、夜中に父が起きてトイレに行こうと思ったとき、隣に寝ていた母につまずいて転倒してしまい、手をついた際に手首を捻挫してしまった。

Q6_2_1 製品等の名称

--- ▼ その他(自由記述)

Q6_2_2 事例の詳細

Q6_2_3 その経験をした高齢者の方の性別を教えてください。

--- ▼

Q6_2_4 その時の高齢者の方の年齢を教えてください。

--- ▼

Q6_3 その時の高齢者の方の世帯の人数を教えてください。

--- ▼

次へ



あなたが見守りを行っている高齢者の自宅の玄関・階段・廊下での「けがをした、しそうになった」経験について教えてください。
複数の経験がある場合、最も印象的だった事例についてお答えください。

※ここでの「けが」とは：けが(やけどを含む)、誤飲、窒息、溺水などによる体調不良や火事になりそうになったことも含みます。

Q7_1 その経験は、どのような程度でしたか？

- けがをして入院した
- けがをして病院へ行った
- けがをしたが病院へは行かなかった
- けがをしそうになった

Q7_2 その経験の詳細を、記入例を参考に教えてください。

【記入例1】製品、場所等の名称：玄関

父が玄関から家に入ろうとして、突っかかりが脱げきれずにそのまま顔から転倒して鼻血が出てしまった。

【記入例2】製品、場所等の名称：階段

母が階段を昇るときに、ロングスカートの裾を踏んで転倒して向う脛を激しく打ってしまい、1ヶ月くらい痛みが取れなかった。

Q7_2_1 製品等の名称

--- ▼ その他(自由記述)

Q7_2_2 事例の詳細

Q7_2_3 その経験をした高齢者の方の性別を教えてください。

--- ▼

Q7_2_4 その時の高齢者の方の年齢を教えてください。

--- ▼

Q7_3 その時の高齢者の方の世帯の人数を教えてください。

--- ▼

次へ



あなたが見守りを行っている高齢者の自宅のベランダ・庭での「けがをした、しそうになった」経験について教えてください。
複数の経験がある場合、最も印象的だった事例についてお答えください。

※ここでの「けが」とは：けが(やけどを含む)、誤飲、窒息、溺水などによる体調不良や火事になりそうになったことも含みます。

Q8_1 その経験は、どのような程度でしたか?

- けがをして入院した
- けがをして病院へ行った
- けがをしたが病院へは行かなかった
- けがをしそうになった

Q8_2 その経験の詳細を、記入例を参考に教えてください。

【記入例1】製品、場所等の名称：ベランダ

父がベランダでタバコを吸ったあと、吸い殻の火をきちんと消していなかったのか、家の中に戻ろうと思ったところ、灰皿の中の火が大きくなっており、近くにいた母が見つけてあわてて水をかけたので、火が燃え広がらずに消んだ。

【記入例2】製品、場所等の名称：脚立

近所のおじいさんが、植木の手入れのため脚立に乗って剪定していたところ、バランスを崩して脚立から転落し、腰を打った。骨にひびが入り全治2か月だった。

Q8_2_1 製品等の名称

--- ▼ その他(自由記述)

Q8_2_2 事例の詳細

Q8_2_3 その経験をした高齢者の方の性別を教えてください。

--- ▼

Q8_2_4 その時の高齢者の方の年齢を教えてください。

--- ▼

Q8_3 その時の高齢者の方の世帯の人数を教えてください。

--- ▼

次へ



あなたが見守りを行っている高齢者の居住する集合住宅の共用部での「けがをした、しそようになった」経験について教えてください。
複数の経験がある場合、最も印象的だった事例についてお答えください。

※ここでの「けが」とは：けが(やけどを含む)、誤飲、窒息、溺水などによる体調不良や火事になりそうになったことも含みます。

Q9_1 その経験は、どのような程度でしたか？

- けがをして入院した
- けがをして病院へ行った
- けがをしたが病院へは行かなかった
- けがをしそうになった

Q9_2 その経験の詳細を、記入例を参考に教えてください。

【記入例1】製品、場所等の名称：エントランス
祖母が、居住しているマンションのエントランスの床で滑って、膝を打ち、2か月ほど通院した。滑ったエントランスは屋内にあるが、外は雨が降っていたので、エントランスの床が濡れて滑りやすくなっていたようだ。

【記入例2】製品、場所等の名称：階段
父は、2年前、マンションの外階段を踏み外しそうになったことがある。幸い、とっさに手すりにつかまったので大事には至らなかったが、一歩間違えれば頭を打っていたかもしれないと思うとゾッとする。マンションにはエレベータもあるが、本人は、階段を使っていたようで、このとき以来、階段ではなくエレベータを使うようにしている。

Q9_2_1 製品等の名称

--- ▼ その他(自由記述)

Q9_2_2 事例の詳細

Q9_2_3 その経験をした高齢者の方の性別を教えてください。

--- ▼

Q9_2_4 その時の高齢者の方の年齢を教えてください。

--- ▼

Q9_3 その時の高齢者の方の世帯の人数を教えてください。

--- ▼

次へ

あなたが見守りを行っている高齢者が、その他リビング、台所、お風呂、寝室、玄関、庭、ベランダ等を除く)の中や製品で「けがをした、しそようになった」経験について教えてください(発生場所が不明なものも含まれます。)。複数の経験がある場合、最も印象的だった事例についてお答えください。

※ここでの「けが」とは：けが(やけどを含む) 誤飲、窒息、溺水などによる体調不良や火事になりそようになったことも含まれます。

Q10_1 その経験は、どのような程度でしたか?

- けがをして入院した
- けがをして病院へ行った
- けがをしたが病院へは行かなかった
- けがをしそようになった

Q10_2 その経験の詳細を、記入例を参考に教えてください。

【記入例1】製品、場所等の名称：不明
私がヘルパーとして訪問したら、訪問先の女性の右脚が大きな青あざになっていたのので、あわてて病院へ連れて行った。
幸い骨折はしていなかった。家の中で何かにつまずいて転んだようだが、いつどこでつまずいたのか、はっきり覚えていないようだった。

Q10_2_1 製品、場所等の名称

Q10_2_2 事例の詳細

Q10_2_3 その経験をした高齢者の方の性別を教えてください。

Q10_2_4 その時の高齢者の方の年齢を教えてください。

Q10_3 その時の高齢者の方の世帯の人数を教えてください。

次へ

Q11

あなたが見守りを行っている高齢者の身の回りの安全(けが、やけど、誤飲等の未然防止)
について、普段気をつけていることや工夫があったら教えてください。

【記入例1】

両親は、夏の暑いときでも、窓を閉め切りにし、エアコンもつけずにいるので熱中症になりそう
なことがあった。つけたエアコンもすぐに消してしまうので、28℃で温度設定してつけっぱなしにし、
リモコンを隠しておくようにした。

【記入例2】

姉は、フローリングに敷いたマットでよく滑るので、カーペットや玄関マットも含めて、床に敷物を
敷かないようにした。

送信

以上